

## 映画の影響と私

アガタコッツ

1.) 動機

2.) ディスカッション

- ◇ 自分の経験
- ◇ 映画以外に自分が影響を受けたもの。
- ◇ 映画の影響はということか。
- ◇ 人々に影響を与えるために何が必要だと思うか。
- ◇ 現在人々の映画に対する意見、見方はどうなのか。ただ一種の遊びとして捉えているのか。

3.) 結論

4.) 終わりに

1.) 動機

映画は色々な手段を使って、人々の気持ちに影響を与える。様々な人がそういう影響を受けたことがあると思う。誰もがそのような経験を持つわけではないが、そういう人の数は少なくはないと思う。

ポーランドと日本はとても離れている国だが、テレビや映画館で日本の映画が上映された時、いつも人気があった。なぜかというと、多分日本の全然違う文化、習慣、思想などがポーランド人にとってとても面白くて、新鮮であるからだ。私も小学校の終わりぐらいの時から、友達と一緒に日本の映画際によく行った覚えがある。今思うと、全ての映画が素晴らしい作品だったわけではないが、確かにあの時の私に大きな影響を与えた。

人によって一番強く感じている感覚は違う。私の場合には五感の中で、心で一番強く感じるのは視覚である。小学校や高校の時に色々な日本の映画を見たが、一番思い出に残っているのは大学の時に見た北野武の作品だ。日本学科の一年生として日本語を勉強し始めた頃だった。日本学科で勉強する間に、日本の映画を見る機会がかなり多くなり、映画祭と違って、新しく作られた作品を見ることも出来た。ただ、前は、日本語が全然解らなかったもので、違うように感じていた。

それで初めて大学の授業中に北野武の『花火』と言う作品を見て、とても感動した。どうしてかというと『花火』の中で一番面白かったのは、何分かごとに話の内容を表す絵が出ていたからだ。この絵は、主人公の怪我をした友達が描いたもので、主人公の人生や、色々な選択が絵の中に映っていた。私は色々なことを聞くより、目で見るとの方が心深く感じている。この絵を見ると、主人公の気持ちや、混乱していたことが解って来た。だから

きっと、あの映画が私にとって、今まで思い出深いものとして残っていると思う。例えば、知り合いからこういう話を直接に聞いたとしたら、今までにきっと忘れてしまった。ある映画は人々の心の中でずっと残っているが、他の作品は見てよかったと思っても、すぐ消えてしまう。

人間というものは、それぞれの趣味や興味を持っている上に、だいたい一つのことだけに興味を持っているとは限らない。私も日本文化や映画以外に、他の事をするのが好きだと言える。特に、子供の時から絵を描くのが私にとって、とても大事なことであった。しかし、ある時に、どちらを大事にするかと言うより、どちらを、趣味だけでなく将来との関係のあるものにするかを決心しなければならなかった。私は日本語を勉強したいと決めた時に、絵を描くための時間は少なくなるとある程度まで知っていた。その選択を後悔してはいなかったが、大学の勉強をあきらめようと思っていた時もあった。例えば、私が日本学科ではなくて、美術学校に行ったら、現在、私の人生は全然違うものになっていたと思う。それで、『花火』を見た時に絵のことに感動して、大学のことが悔しくて、あと少し頑張ろうという感情を持ち始めて、心強くなったことのおかげで、一回選んだ人生の道を諦めずに歩むことが出来た。その結果が、今私はこんなにポーランドから離れている場所にいることの一つの大事な理由だし、あの時に私の日本までの道が本当に始まったと思う。

人々は自分の人生の道を選ぶ。私の今までの道はまさにその時に決めたが、これから新しい経験を積み、その結果私の人生はまた変わるかもしれない。私にとって映画は私の人生を変えたという意味でとても大事だということである。

## 2.) ディスカッション

私の相手はゆりかもめ7グループの虹さんだった。彼女も映画について関心を持っていたから、色々な映画と映画の影響自体についてディスカッションをした。

虹さんもある映画から影響を受けたので、初めに私たちはこの経験について話し合った。

### I. 自分の経験

アガタ：最近、自分で映画から影響を与えられた経験がありますか？

虹さん：はい、あります。

アガタ：どういう経験でしたか？

虹さん：私は韓国の映画見てから、韓国の文化に興味を持つようになりました。その映画の映像はとてもきれいな映像で、音楽もとても素晴らしくて、感動しました。

アガタ：そうですか。映画の中で、特に、何に感動しましたか？

虹さん：アガタさんと同じように映像に感動しました。またその映画の台詞はあんまり多くないので、主人公達が話す言葉は少ないです。ただ雨の時の雰囲気も、嬉しい時も、ピカピカしている、綺麗なクリスマスツリーのようなことを見て、主人公

達の気持ちに分かります。こうすることで映画の雰囲気を感じることができると  
思います。

アガタ：そうですね。それで、見終わった後に何か考えたこととかありましたか？

虹さん：たくさんありましたね。主なことは、この前韓国の映画を始めて見たので、韓国  
の映画はこのようなものかと最初の印象が頭に残っていて、後からたくさん韓  
国の映画を見ました。

アガタ：でも、この映画は一番思い出に残っていますか？

虹さん：そうですね。一番好きです。

アガタ：映画の影響によって、韓国の文化に興味を持つようになったと言いましたよね？  
これは何か結果ありましたか？

虹さん：二ヶ月くらい韓国語を勉強した。韓国の文化理解するために。また、私は韓国の  
友達ができました。上海で二人の友達と韓国で一人のペンフレンド。

アガタ：私にとって、ほかの国の文化を理解するためにこの国の言葉を分かることはとて  
も重要だと思う。映画を見るにしても、本を読むよりにしてもオリジナルの方がず  
っと強く感じる。だから、映画を見る時も、もしほかの言語が分かっていたら、必  
ず字幕じゃなくて、本物のバージョンを聞くのが大事だと思う。

虹さん：そうですね。そのために韓国語を少し勉強して、それで日本語を勉強し始めたき  
っかけって言えば、日本人の歌手の歌詞がもっと深く理解したかったと言えます。

虹さんと話す間に私は一つの重要なことに気がついたと思う。オリジナルと翻訳のこと  
だ。映画や小説の場合、翻訳よりオリジナルの方がもっと深く理解できる、他の言語が分  
かっていたら、映画が伝えようとするをもっと味わえる。字幕を読みながら映画を見  
ると、何かを失っていると思う。

## II. 映画以外に自分が影響を受けたもの。

アガタ：映画以外に、何から影響を受けたって言えると思う？

虹さん：私はインターネットからかな～。小説とかにあんまり興味がない。

アガタ：私なら、反対だと思う。もちろんインターネットとかは大事だけど、本の影響も  
とても強いと思う。特に、映画より長い歴史の芸術であるから映画にも影響を与  
える。それで、小説を読む時も、できれば、翻訳じゃなくて、オリジナルの方が  
心深く感じると思う。

これは私たちの次の話題であった。しかし、虹さんは私と同じように映画について興味  
を持っている反面、小説とかはあんまり重要ではないと思っているようだ。だが、私にと  
って、映画も、インターネットも、最初に本から影響を与えられたので、本の大切さを認

識することも必要だ。もちろん現在映画の影響はもっと強いが、映画の中に小説の影響が含まれていると思う。

### III. 映画の影響はどういうことか。

アガタ：映画の影響と言え、どんなことだと思っ？私にとって、映画を見た後に色々考えたり、このようなこととかしたらいいと思ったり、それで生きているうちに自分の生活を変えることだ。

虹さん：自分も成長したような感じで、または考え方もちょっと変わることがあると思う。私は好きな映画はほとんどラブストーリーで、いつも主人公ががんばっていることに感動した。というのは、初めは、なかなか会えなくて、またお互いに理解できない人だった。でも結果は、いつもハッピーエンドになって、私も生き生きと生活したい。また頑張りたい。

アガタ：そうですね。諦めたい時に力を出して、また頑張ろうと思うよね。

虹さん：そうね、こういう気持ちで私はすぐ元気になる。

アガタ：いいね。わかるよ。私も北野武の映画のおかげでまだ日本語を勉強している。

虹さん：子供の時に見た映画と大人になってから見た映画についての感想は違うですね。

アガタ：確かに、人の好みというより、人間が成長するから、私のある映画についての意見とかも、時間が立つと共に、変わってきた。特に、子供の時に、ほとんどのものが新しく、新鮮だったと思う。大人になると、あるものに飽きたり、関心を失ったりすることもあるからだ。あんまり単純すぎるとか、この映画が伝えようとする考え方はあんまり深くないと思うこともある。

虹さん：一つの大事なものは、さきに言ったように、元気出せることだ。私にとって、もう一つ重要なことは、やっぱり中国の人だけじゃなくて、外のアジアや世界の国々の文化理解できる、また外国の人達と友達になるようなやる気も出てくると思う。

アガタ：世界をもっと知りたいような感じがしますね。

虹さん：前、もしずっと中国の音楽や映画だけに興味があれば、他のことについてあんまり分からないよね。ただ、自分の世界に生きているって感じ。

映画の影響といえばとても広い話題だ。虹さんと似ている意見や気持ちもあったが、違っている意見もあった。私は動機の部分に書いたように、私にとって、映画は私の人生を変えたということでもっと大事だということである。虹さんの意見は少し違っていた。彼女にとっては、成長する時と同じように、考え方がだんだん変わってくることだと言った。この意見に、私は賛成できるが、それだけではないと思う。知力に関する成長だけでなく、自分の感性を発達させることもできると思うからだ。

IV. 人々に影響を与えるために何が必要だと思うか。

アガタ：映画の作り方（組み合わせ）も重要だと思う。というのは、作り方によって、映画の雰囲気が違うこともあるし、画像と私にとって目で感じるものと繋がっているからだ。

虹さん：そうですね、特に国によっても、または監督によって、作り方が違うので。

アガタ：人々に影響を与えるために何が必要だと思うのか。そして映画に何があったら、絶対に影響を与えると思うのか？

虹さん：色々な様子だと思うけど、特に重要なのは、三つのものだと思う。画像、内容と音楽。後アガタさんが言ったように作り方も～。

アガタ：私にとって作り方は確かに大事だと思う。でも、もっと詳しく言えば...

虹さん：色彩だね。例えば白とか、赤、このような強い色。

アガタ：中国の『HERO』という映画みたいに？あれは四つの部分に分かれていて、それぞれの中で色々な色彩がストーリーの感情を伝えるために使われている。それぞれにもエンディングも違うよね。

虹さん：そうですね。はい、色彩はとても重要だと思う。主人公の内心を表せるから。

アガタ：じゃ、音楽だったら、リズムとか、そういうものも大事なかな～私は画像や色彩や作り方の方が大事だと思う。

(中略)

相手と話した時に初めて、色彩という言葉が出てきた。映画の中で大切なものについて、虹さんと私の意見は少し違っていたが、この事に関しては同感だった。なぜかという、私は、目で見るのが心深く感じているので、色彩などは、私にとっても強い影響を与える。

V. 現在人々の映画に対しての意見、見方はどうなのか。ただ一種の遊びとして捉えているのか。

虹さん：上海でね、映画はだいたいカップル、恋人同士がよく見るものです。

他の人達ほとんど映画館で見ないね。

アガタ：もし誰かが一人でいったら、それはありえない？

虹さん：ちょっと変だと思われる。

アガタ：映画を見る文化はポーランドでかなり強いから、全然違うイメージがする。

虹さん：映画を見るのが遊びだとも言えない。遊びっていえばカラオケとか。やっぱり現代人にとって、今、生活のスピードはとても早いから、気が付いて、二、三時間ぐらいこの静かな、何も言わないまま黙って、映画を見るための時間はないと思う。皆、忙しい、忙しいこのような感じで、この現代社会に集中している。今、ちょっとリラックスして、映画一本見るとか、このような考え方がないと思う。私もそうです。

アガタ：そうですか。私の場合はちょっと違う。私なら映画は生活の楽しさというより、映画を見ると落ち着けるし、色々（なこと）を考え出す、感動するので、生活の一つの部分だと思う。

虹さん：私もよく映画を見るけど、インターネットからダウンロードすることもよくある。でも映画館での雰囲気と違う。

アガタ：そうだよ。最初の時だいたい一番強く感じるのだから、映画館で見た方がずっといいと思う。どうしてかというと、映画館での雰囲気も違うし、映画に集中ができる。もちろん、家で見ると、何回も好きな映画が見られるから、これもいいけど、最初の印象や感動が映画館でもっと強い。それに、家にいると、ゆっくり映画が見られるといえるけど、その反面、簡単に邪魔されて、映画に集中できないと思う。だから私にとって映画館で見るのが大事だ。

虹さん：あとね、映画から影響を受けて、自分の気持ちや考えを変えます。例えば、主人公みたいな人だったら、主人公の空想の世界に入れます。

アガタ：自分を主人公の立場に想像したら？

虹さん：そう、どんな気持ちを感じるか、どんなことするか。私いつも映画を見ながら、考えています。

アガタ：映画の中でよく新しい概念や観念が含まれているし、もう知っていることを工夫して、面白い作品もある。この新しい見方や、新しいものを他の人に見せるのが重要だと思う。

虹さん：そうですね。私たちは今持っている、世界のイメージはほとんど映画から出てくる。もし、例えば三百年後の世界を想像してくださいと言われたら、私の頭に出たものは私が自分で考え出したものじゃない。車が飛行機のように飛んでいるイメージとか、人々は皆コンピュータを使って、仕事するとか、将来の世界はどのような場所だとか、全部映画からもらったイメージだ。

アガタ：というのは、私たちは気が付かないうちに影響を受けるってこと？

虹さん：そうですね。それで、映画の影響といえば、子供の時は結構強く感じると思う。

アガタさんも小さい時にそういう影響を受けましたね。

アガタ：確かに、そうだと思うし、それに、ある程度の背景を作ると思う。もし私が小学校の時にその映画を見なかったら、あとの影響が弱くて、普通の興味だけで終わったかもしれない。日本文化はもっと深く知りたい気持ちが出てこなかったかもしれない。だから背景は重要だと思う。何かに深い興味を持つようになるために、時間というより色々な出来事が必要と思う。映画についての興味と日本語の勉強は私の場合お互いに影響を与える。

「中略」

虹さんの最初言葉を聞いた時にとてもびっくりした。勿論、ポーランドで恋人同士は映

画館でデートするが、映画館で映画を見るのがカップルだけに限らない。友達と一緒に رفتり、一人で行ったりすることも普通だと思われる。それで、他の人々と意見を交換することもできる。だが、上海の場合だと、私が今まで持っていたのと随分違うイメージが頭に浮かんでくる。なぜかという、恋人と行く時は、映画を見るのが一番大事な目的だと思うからだ。

私にとって、映画館には特別な雰囲気もあるし、映画にも集中できる。家で見る時は簡単に邪魔されるし、色々なものを見逃す場合も少なくはない。それで感動力が落ちると思う。映画館にいと、落ち着いて、集中して、映画の世界に囲まれるが、家にいる場合これができない。それに、映画館の雰囲気も影響を与えるし、最初の印象が一番強いので、映画館で見ることは不可欠だと思う。

その上、だいたい気づかないうちに映画の影響で私たちには色々な新しい概念が伝わってくるのだ。本のほうが歴史は長い、最近では、映画のほうが伝える力が強いと思うこともある。

私と虹さんのディスカッションが終結した。彼女も映画に深く興味を持つ人なので、映画と映画の影響についてさまざまな面白い話できた。虹さんの個人的な経験から映画の影響にわたって、色々なポイントを述べ、今まで気づかなかったこと、または、考えたことはあったが、本当に意識していなかったことが見えるようになった。

## 結論

さて、動機に書いたように、私は目で見ると一番心深く感じている。それゆえに、色彩という言葉がとても重要だと思った。なぜかという、映画の内容と映画に含まれている気持ちを伝えるための一つの大事な方法だからである。

それに、また大事なものは、画像に含まれている映画の魅力である。今まで色々な映画を見て、字幕を読みながら見た感じと、字幕を読まずに聞きながら見た感じは違うと思うようになった。なぜかという、字幕を読むと映像に集中することができないから、映画のメッセージは弱くなるからだ。それと似ていることといえば、小説の翻訳の問題だといえる。翻訳する場合には、だいたい二つの選択しかない。一つ目は、オリジナルから文字通り直訳すること、二つ目は、自分の言葉や文化に合わせて、内容を少し変えて書くことである。どちらにしても、何かを失う。従って、可能な限り、原語で読むほうがいいと思う。このことは映画に関しても同じだと言えるだろう。原語で見ることによって映像に集中することができる。

映画を通じて新しい興味や、他の国の文化を知りたくなる、他の国の友達が欲しくなる場合もある。これも、映画を見ることの良い面だと思う。しかし、虹さんは私と同じように映画について興味を持っている反面、本や他の、書かれたものはあんまり重要ではないと思っていた。私の場合は、映画よりも、インターネットよりも先に、最初に本から影響を

受けたので、文字で書かれたものを忘れてはいけないと思う。勿論、映画の影響は強いが、映画の中に小説からの様々な影響も含まれているからだ。

人は、成長すると共に、考え方がだんだん変わってくる。私も、映画のおかげで、知力に関する成長だけでなく、自分の感性を発達させることもできたと思うのだ。これを通じて、自分の性格や、心を豊かにすることができた。他の国を理解したい気持ちとか、他の国の人々と友達になりたい気持ちも重要だと思うようになった。私も色々な映画を見たから、世界をもっと知りたくなった。その結果、この気持ちが私の日本語を学ぶ決心と関係あったと今では思う。

私にとって、映画は私の人生を変えたという意味でとても大事だ。それだけでなく、映画のおかげで私の人生はもっと豊かになったとも言える。私にとって、映画は生活の重要な一部分なので、いくら時間がなくても、できる限り映画を見るための時間を作ろうとしている。現在、生活のスピードは速くなる一方だが、こういう時間も必要だと思う。黙り込んで、二、三時間を暗い空間で過ごして、精神浄化、他の言葉でいうとカタルシスができるからだ。

#### **終わりに：**

十月に始まったこの活動はもうそろそろ終わる。三ヶ月の間に、レポートを書き続けて、やっと完成した。今思うと、SABORU なグループと過ごした時間は、あっという間に過ぎた感じがする。難しい時もあったが、皆さんからのコメントや意見を受けて、自分が言いたいことをもっときれいに、きちんと書けるようになったし、私の日本語能力は伸びたと感じる。それだけでなく、皆と意見や感想を交わすうえに、一緒に楽しく昼ご飯の時間を過ごし、SABORU なグループのメンバーの誕生日お祝いしたことで友達になったと思う。毎週レポートを書き直すのは大変だったが、金曜日に来るのをいつも楽しみにしていた。この授業は、私の日本での留学の大事な一つの思い出になった。

# 移 民

ジェニー

## 動機レポート

家というのは何か？ 建物のことか。生まれ育ったところか。今まで住んでいたところか。それとも、家族にいる場所か。

台北にある小さいアパートで生まれた私にとってそこは家だった。人口の二千万以上である台湾の一番こんでいる町で私と5人の家族が住んでいた。そこで、私が可愛がっていた祖父母と父母と一人の弟と一緒に家庭という暖かくて、愛情で作った安心な帰りところで12年間幸せな生活を過ごした。

しかし、1993年、私の12歳の時、家族が移民した。

移民という言葉は多くの人たちにとって遙かな単語のでしょう。しかし、私には深刻な体験があり、12歳の時家族と一緒にオーストラリアに移民した。

移民、他郷に移り住むことと辞書に書いてあるが、実際的に移民というのは長い過程で、心理的にも準備必要である。

移民のきっかけは小学校3年生時の海外旅行だ。家族と一緒にオーストラリアに行って、初めて西洋の国だったから、何でも新鮮で、おもしろかった。オーストラリアの学生も楽しそうに見えるから、父がここに住みたいかと聞くとすぐ「いいわよ！」と返事した。しかし、まさか本当に移民したのは思わなかった。

祖父母はやはり外国の生活習慣や新しい言語のことを心配なので、台湾に住むことにした。私とオーストラリアに行ったのは父と母と弟しかいなかった。つまり、移民したため、大好きな祖父母を離れて、家族はバラバラになった。

それから、私の姫様のような子供時代が終わった。世界が変わった。

今でもよくその寂しい気持ちを覚えている。最初の半年間は本当につらかった。祖父母の姿が見えないから、台湾より何倍も大きい家に帰っても、暖かく感じられないかった。毎日学校に行っても、授業の内容が理解できないし、友達もいないし、英語もぜんぜん分からない状態で長い毎日を過ごした。台湾の詰め込む教育から、オーストラリアの答えを自分から見つける勉強方に適応させた。

今までにぎやかな町で生活したのに、メルボルンの静かな、ゆっくりな生活はつまらなかった。しかも、毎日5時以後や週末の時にみせを営業しないことも理解できなくて、とても不便だと感じた。旅行中のオーストラリアは楽しかったが、移民した後には寂しくて、つまらなくて、外国にいるように感じられた。毎日、早く慣れるように頑張ってきた。

結局、人間は強いものだ。時間につれて、新しい生活にだんだん慣れてきた。移民したのはもう10年である。いつから周りの人のことばが分かるようになったのか、英語が話せるようになったのか、もう自分のことは外国人と思わなかったのか私も覚え

ていない。

人生の初めの12年間に家というところはその小さいアパートだった。次の10年間は生活中心をメルボルンにある家に転じた。つらい時もあったが、今心からあの時の父母の移民に対する決心に感謝している。移民の経験があったから、東洋と西洋の文化が両方触れ合ったし、違う教育を受けたし、あたらしい生活からいろいろ成長させた。やはり、性格が伸ばすことは重要だと思うが、西洋教育で育つた私は台湾にいる友達よりしっかり自分の考え方や価値観を持っている。それから、ただいつも試験のために勉強するじゃなくて、いろいろ社会活動や戸外活動に参加したからこそ私の世界も広がった。

そうと言っても、何のことも長所短所がある。二つの国籍を持っている、二つの国に住む経験のお陰で、中国語や英語が話すことができると言えるが、全部でも中途半端な様子なので将来に役に立てるか分からない。それに、人間として、所属感が必要である、自分は台湾人か、オーストラリア人か時々自問する。

また、今日本にいる私にはもう一度異郷にいる孤独感を感じられた。しかし、今度は一人で頑張らなければならない気持ちと覚悟もできた。なぜなら、最近自問した答えがちょっと見つけた。私の家族は客家人である。調べると、客家人は昔いろいろなところで「客」として、「家」として泊まることがあった。私はオーストラリアも台湾も日本も好きだ。私は分かってきた。これからは多分いろいろな挑戦や新しい経験が待っている、どこにいても適応して、家にするのは客家人の特性である。私の家は台湾にある、メルボルンにある、今日本にある。人生はまた長い、世界は広い、移民したことは独特の経験だ。

私にとって、移民したことは世界に向かうの第一歩である。

## ディスカッション

相手は留学生のセイカさん、バコクケンさん、日本人の牛窪さん、真一さん、そして、私と同じように台湾からオーストラリアに移民した友達リンさんである。違う背景の人たちと話して、いろいろな意見や見方やおもしろい話を聞かせて頂いた。

### 「移民」の意味

ジェニー：セイカさんは移民したこと、あるいは移民した友達が知っていますか？

セイカさん：いいえ、知らないです。私は中国人で、今回は初めて海外にきて、日本に留学しています。だから、私は移民することに対してはあまり分かりません。

ジェニー：移民という言葉を知ると、どんなイメージが出ますか？

真一：日本人はあまり移民することは分からないし、普及じゃないから、移民を知ると、なんかゴールドラッシュみたいな気持ちを感じられます。遠いところに行って、新しい夢か希望を期待しながら移民することだと思います。

ジェニー：つまり、自分の国はもうゴールドがないことですか

真一：そうですね。自分の国から出て、もっといい機会やチャンスがあるところに移って、素晴らしい人生を送れるために移民するじゃないですか。僕はそう思います。「となりの芝は青く見える」と少し似てるが、新しい国には素晴らしいことがきっとあるという気持ちがあると思います。

ジェニー：それはそうですね。でも、私が知っているオーストラリアにいる人たちは皆毎年必ず最低に一回台湾に帰ります。私もいつも、台湾に帰ることを楽しみにしています。それはやはり、自分の故郷に特別な感情が持っているでしょう。

真一：そうかもしれないです。人間はいつも何か失った後に、その価値を認め始めるんですね。

ジェニー：それは多分、台湾を出ないと、比較できないから、台湾のいいところを分らないでしょう。どの国でも、よいとわるいところがあるからですね。

バコクケン：移民することは自分の国を捨てることだと思います。なぜなら、自分の出身地は一生の重要な場所だと思います。人はどうして移民するのは理解できないです。

ジェニー：へへ、すうですか。でも、私は確かに移民したけれども、台湾を捨てたとは思いません。毎年祖父母を見に帰るし、台湾も自分の故郷だと考えられます。

バコクケン：古い考え方もかもしれないが、中国人にとって、「根」は非常に大切で、中国人なら、中国は「根」です。だから、中国は家で、他の国に移民することはやはり、「根」を捨てることじゃないですか。

ジェニー：いいえ、例えば、ある友達の話によると、移民するのは新しい夢やもっといい生活を探すためのすることだそうです。私もそう思います。故郷を捨てるじゃなくて、ただ、もっとたくさんいい仕事を探せるために、田舎から都会に引っ越しするみたいのことと同じだと思います。

バコクケン：そういえば、そうかもしれないけれど。

ジェニー：じゃ、バコクケンさんはどうして中国から日本に来ましたか？

バコクケン：それは、もちろん日本語を勉強したいから来ました。でも、それは日本のいいところを勉強して、終わったら中国に帰って、そこで生活するつもりです。移民するなんかしないです。

いろいろ人たちと話して、やはり、話題は移民という言葉の意味は人によって違います。移民した経験がない人たちにとって、「移民」という言葉はあまり深く分からないが気がする。一人の中国人と話して、その人はまた伝統的な考え方で、移民することは自分の国を捨てることだと思っている。しかし、もう一人の日本人の友達は移民と聞くと、GOLD RUSH みたいなイメージが出でくると言った。それは、生まれたところはもう可能性がなくなってから新しいところに移って、新しい可能性や夢を

探す。つまり、田舎から都会に移るのと同じ意味で存在している。それを聞いたら、私もちちと母の気持ちをちょっと理解できるかもしれない。

### 「家」の意味

ジェニー：ちょっと家について話したいが、家というのは何ですか？建物のことか、生まれ育ったところか、それとも、家族がいる場所ですか？

セイカさん：家ですか。はい、私はやっぱり家族にいる場所だと思います。私にとって家族は重要だからです。

ジェニー：気持ち分かります。私も祖母が小さいころから育てくれたから、祖母がいる場所はなんか暖かくて、家のような気持ちが感じられます。

でも、セイカさんは家族がいる場所が家だと思うなら、たとえば、今お父さんもお母さんも日本にいて、日本で家があって、皆日本に住んだらセイカさんは日本のことを家だと思われませんか。

セイカさん：はい、家族が日本にいと、家は日本です。

真一： 私の実家は群馬ですが、そこも家だと感じるが、自分の小さいアパートのほうが自分の空間だと思います。

違う人にとって、家は違う価値や意味である。 家族がいる場所、帰ると安心できるところ、私は幸せじゃないです。なぜなら、台湾にも祖父母がいて、オーストラリアには家族がいて、両方でも暖かくて、安心できて、家に感じられる場所は二つある。

### 所属感

ジェニー：実は、私移民したから、そして家族もオーストラリアにいるが、祖父母が台湾にいるので、両方も家だと思っています。でも、その意味で、時々所属感はないです。私はオーストラリアで教育してきて、英語も問題ないが、どうしても、アジア人の黄色皮膚で、黒い髪の毛だからオーストラリアパスポートを持っていてもオーストラリア人には見えないでしょう。そして、台湾に帰っても、台湾人には見えるけど、やっぱり、西洋教育を受けたために、考え方は少し違うから、もう本物の台湾人ではないです。

セイカさん：そうですね。ちょっと分かりますとおもいます。私のお爺さんのお父さんと韓国人です。つまり、私は朝鮮人です。家では朝鮮語で話しています。そして、韓国にも親戚がいます。だから、私も時々自分が中国人か韓国人か悩んでいます。

ジェニー：でも、ずうと今までは中国で生まれて、そこで生活したでしょう？ 中国

人じゃないですか？

**セイカさん**：そうですね。ジェニーさんは国の問題です。私は民族の問題です。中国で漢族は多くの92%で、私みたいな朝鮮族は少数民族だといいます。だから、ちょっと違います。この前、ワールドカップでも私はどっちかを応援するか分からなかったです。

**ジェニー**：それはおもしろいです。そこまで悩んでるですね。

**セイカさん**：はい、でも、私の子供だったら、もうあまり関係ないと思うから、多分100%の中国人でしょう。

**牛窪**：僕はジェニーさんがレポートに書いてある所属感について興味があるが、どうしてそんなに拘っていますか？

**ジェニー**：人間は所属感が必要だと思います。ないと不安じゃないですか。

**牛窪**：そうですね、所属感はいろいろなところから感じられるものだと思います。例えば、今ジェニーさんは早稲田の学生たちと慶応大学の学生たちと一緒にいると、早稲田大学のグループの一人だから、そこで所属感もあるじゃないですか。

**ジェニー**：ああ、なるほどね。。。そういえば、私は今「さぼるな」グループの一員、そして、早稲田大学の一人の生徒、また、私の家族の一員である。いろいろな身分で、いろいろな違う大きさの組織に所属できますね。

**牛窪**：まあ。ジェニーさんも一人の地球人ですね。ハハ！！

所属の悩むは移民した人だけの悩むじゃなくて、同じ国でも民族の問題があることは始めて気がつきました。文章に私は所属感にこだわって、時々困ったけれども、人と話したあと、もうそこまで気にしていない。なぜかというと、ただ、国に所属するじゃなくて、いろいろな範囲で所属感が見つかることが教えてくれた。また、もっと大事なことも気が付いた、いろいろな組織に所属しながら、私は一人の特別な存在である。

### **移民した人に対する感想**

**ジェニー**：私みたいな移民した人にどう思いますか？何か今まで一つの国に成長した人たちと比べると違いますか？私みたいな半分台湾人で、半分オーストラリア人で、両方の考え方もあって、それはいいこと、それともわるいことだと思いますか？

**セイカさん**：今の私はあまり外国に行く機会はないから、ジェニーに羨ましいです。

**セイカさん**：もちろん、いいことだと思います。いろいろな国に行くと、人やものを見れば、考えも変わるんです。いつも中国にいて、いつも同じ考えでことや人を見る、でもそれは、間違い時もあります。だから、私は今日本に来て、日本人のいろいろなやり方を見て、いいことを学んで、悪いことは勉強として注意します。一つだでの見方

じゃなくて、いろいろな見方であるほうがいいと思います。

ジェニー：すばらしい考えですね。自分も確かに、オーストラリアに移民したのお陰で、考えもこころも広がったと気がします。

私が移民したことにうらやましいと言いました。うれしいです。やっぱり、いろんなつらいことがあっても、そして、所属の問題があっても、実は、自分の中に、二つの言語が話せることや両方の教育を受けたことにたいしての優越感もあるかもしれません。

### **移民した感想**

ジェニー：リンさんも台湾からオーストラリアに移民して、移民したことはリンさんにとって、いいことでしたか？

リン：移民したことは良かったと思います。私の人生を変ったかもしれません。

ジェニー：そうですね。どう変わりましたか？

リン：今の私は人生を楽しむべきだと分かっています。台湾にいと、ただ毎日皆と同じように生活して、卒業したら仕事をして、時々買い物をするだけだと思います。でもオーストラリアにいる皆はそうじゃなくて、いろいろなところに旅行して、のんびりと暮らすのはいいと思います。

ジェニー：台湾はやはり長く住むと疲れる国ですね。

リン：そうです。空間も余裕です。それにオーストラリアは多民族文化の国だから、いろいろな違うところから来た人たちとお互いに交流できることもいいと思います。知識を増えるほかに、楽しいです。

リン：所属感という問題はないと思います。なぜかというと、オーストラリアは住民の多様なことを誇りにしているし、皆は違う国から来たからこそ、背景は違うだからこそ、平等で、融合しやすいじゃないですか。

ジェニー：でも、台湾に帰ったらどうですか？ 違うでしょう。バナナ人を聞いたことがありますか？つまり、外見はアジア人だけれど、中は西洋の考え方だという人たちです。

リン：でも、それもいいじゃないですか？代えて、かっこいいと思います。特に、台湾にいる時、英語をすごし話すと皆が羨ましいじゃないですか。

ジェニー：じゃ、自分は台湾人、それともオーストラリア人だと思いますか？例えば、何か試合があったら、どこの応援ですか？

リン：うん。。。難しいですね。多分台湾の方を応援するでしょう。なんといっても、台湾は出身地だから。。。。

ジェニー：将来、家族を作ったら、どこに住みたいですか？子供にも移民する経験にさせたいですか？

リン:もうオーストラリアの生活に慣れたから、ここは一番いいと思います。でも、子供には絶対に中国語も話せるように勉強させるほかに、東洋と西洋の考え方も半々にするほうがいいと思います。

リンさんと話してよかった。確かに、オーストラリアにはいろいろな国から集まった人たちが多いため、私のような移民した経験がある人は多い。多民族文化の国だから、自分は100%のオーストラリア人じゃなくても、そんなに外人だと感じられない。また、りんさんは東洋と西洋の両方の考え方を子供に教えてほしいと言ったが将来はやはりのんびりできるオーストラリアに住みたいそう。私もこれから、将来台湾に帰るか、それとも、オーストラリアに住み続けるのかを良く考えなければならぬ。

## 結論

「移民」したことは私の人生の大事件だった。本当はたくさんつらい思い出があって、レポートに伝えたかったけれども、このオーストラリアに移民してからの10年間をよく考えれば、考えるほどいい経験だと思われるになった。それから、いろいろな人と移民することや所属感について話してから、自分の気持ちもだんだん明らかになってきた。今まで、よくわからなかったけれども、今の私は言える。移民して良かった。

移民することは生まれたところにもう可能性がなくなったから新しいところへ移って、新しい可能性や夢を探すことだ。つまり、田舎から都会に移るのと同じ意味で存在している。これは一番相応しい定義だと思う。父と母の気持ちをちょっと理解できるようになったかもしれない。台湾の仕事をあきらめて、オーストラリアに移民して、私と弟を一番いい環境に育ててくれた。移民することは勇気が必要で、きっと父と母もよく考えてから決めたことでしょう。

多くの人たちは私を羨ましいそう。台湾のような混んでいる国から出て、空気がよくて、景色がきれいなオーストラリアに移民できた。また、移民したお陰で、英語が話せるようになって、多民族文化の国だからいろいろな違う文化と触れ合って、いっぱい友達を作ることでもできた。触れ合う世界が大きくなったら、知識や見方も増えるから、移民したお陰で、私は成長した。最初のつらい経験は今価値があると思われる。時々困る所属感がない不安な気持ちもいろいろの人たちと話した後、なくなった。

私は台湾人、そしてオーストラリア人でもある。台湾には大好きな祖父母がいる、オーストラリアには家族がいる、どこに帰っても暖かくて、安心できる港である。オーストラリアは元々多民族文化の国だから、いろいろな違う国から来た人たちがいるか

ら、金髪じゃなくても、青目じゃなくても、オーストラリア人に言えるでしょう。国の所属感にはもう拘らない。いろいろな範囲で所属感が見つかることが教えてくれた。それに、私はジェニーで、世界中にただの一人だ。

動機レポートに書いてある通り、これからもどこに行っても適応して、家にして本物の『客家人』になりたい。移民することは良い経験、しかし、よい国に移民するのはもっと重要だと信じている。だから、父母に感謝している。10年前に、私の家は台湾だけだけれど、今は台湾とオーストラリアだ。きっといつか、日本も私の家になる。私にとって、移民したことは世界に向かうの第一歩であるから。

### 終わりに

この総合クラスで自分の書きたいものを書いて、そしてそのテーマについてもっと真剣に考えて、いろいろな人たちと話し合っただけ楽しかったです。この機会に、私は移民なことについて、深く考えられたし、違う見方も出ていました。そのうえ、レポートを書くから、やはり書くこと、そして他の人の作文を読むこと、ディスカッションをやることは日本語を勉強するための聴く、話す、書く、読むことは全部できました。とてもよかったですと思います。最後に、ボランティアとして私たち留学生を手伝った人たちにも感謝しています。

## 「私と友情」

ブラン・シルヴァン

友情から、様々な事が出来る。例えば、ある日、僕の友達の一部が午前 3 時頃入院しました。彼は「誰に連絡をすればいいですか？」と聞かれて、「シルヴァン」と答えました。従って、看護婦さんから電話が来た僕は、病院まで行くことにしました。けれども、夜分だったので、電車もバスも無く、雨の中を一時間も歩いて病院まで行きました。先生はその友達を病院で休ませたほうがいいし、松葉杖も明日までないとはいいましたが、彼は翌日どうしても出たい試験があったので、直ぐに退院したかったのです。そういうわけで、先生に「お願いします、僕に友達を家に連れて帰させてください。」と頼み、そして友達を背中に負って、雨の中家に帰りました。翌日も、同じように友達を大学まで連れて行ってあげて、自分の大学の試験を受けに行きました。

実は甘えん坊でしょうか、「友情」を異常に大事にしているのです。その気持ちを大事にするのは高校生時代からです。国際高校で勉強していたので、様々な国から来た外国人または母国の人と友情の絆を結べるようになりました。当時、僕はあまり自信を持っていませんでしたが、出会った好きな友達たちのお陰で段々自信を持つようになりました。そして、毎日、ずっと一緒に過ごしたのです。授業の時も、ご飯の時も、休み時間も。そういう友達と、悩みも、嬉しさも、夢も共にしていくにつれて、友情の絆も強くなってきました。そして、子供の頃、母は仕事で忙しくて、父はあまり会わなかった上、全然気が合わなかったので、友達と出来たグループが僕にとって、二番目の家族になってきました。従って、大学生になり、フランスのあちこちに勉強に行くことになって、初めて僕にとっての友情の重大さが分かったのです。そういう大事な人達と離れたのはかなり苦しかったです。僕に「君が大好きだよ、僕達の友達」と刻印されたメダルをくれました。僕の宝物。

僕にとって、友達という人は、悲しみで胸がいっぱいの時には、慰めてくれる人です。例えば、友達が寂しいと僕に電話していいと思います。友達大喜びの時には、一緒にいる人です。相談すると、出来るだけその相談に乗ろうとする人です。問題があると、真夜中だとしても、友達は手伝ってくれる人だと思います。そして、友達とは、手に汗握る事をしなくても、のんびりしたり、映画を観たり、三時間連続ソファに座って、様々な事について話したりして、嬉しいと思います。そして、時々話さなくても、友達を感じるだけで、嬉しい。例えば、フランスでは友達と週末をずっと一緒に過ごすことがあります。一緒に食べたり、遊んだり、話したりする上で、同じところで寝ます。ですから、ある人が料理を作っている間に、他の人は勉強したり、また他の人は本を読むかもしれません。そういう時には「友情の雰囲気」が浮ぶので、心が落ち着くと思います。しかし、お互いに知らないこと、それらのことがしっかりできないと思います。そういうわけで、僕にとっては、友情の絆を結ぶためには、ストレートに話さないといけないのです。何故か

という、率直に話すと、相手とお互いに気持ちまたは考え方を分かり合えるからです。従って、話すにつれて、絆が段々強くなって行くと思います。おまけに、ストレートに話すことで相手を成長させることが出来ます。友達が悪いことをしそうな時には、それを注意することによって、それが悪いことだと気付かせる事が出来るでしょう。例えば、友達が恋人と喧嘩しています。その喧嘩の理由が明らかに友達が悪い場合には、その喧嘩の理由について本人は客観的に考えられないので、友達に「お前が悪いよ」と、指摘しないと駄目だと思います。また、問題があれば、最初から相手に言わないと、些細な問題だとしても段々大きくなっていき、友情の絆を断ち切る場合があるでしょう。けれども、最初からそういう問題について話し合っておくと、簡単に分かり合えると思います。そして、友達の興味と同じだと、問題はありますが、同じではないなら、そういう興味にほんの少しだけでもいいから、持とうとすればいいと思います。

つまり、僕にとって、友達は二番目の家族なのです。勿論、本当の家族と同じ絆ではありませんが、一種の家族だと僕は思います。

## ディスカッション

相手はゆりかもめのグループのリーダーの一人であるアレックスサンダーさん、また内のグループのスジンさんとステファニアさんでした。その3人が僕のテーマに興味があったので、有意義なディスカッションになると思った。

### あなたにとっては、友情は大事な事なんですか？

スジン：私は、友達は私の人生にとって、そんなに重要な存在じゃない。

シルヴァン：どういうこと？全然要らないってこと？というのは、例えば、僕の親父が友達が要らないと思う。まあ、要らないっていうか、要ると思うけど、理由が悪い。彼は「ホラ、俺は物理学者」とか「俺は社交ダンスの先生だぜ」とか、自分を見せる為に友達がいるけど、それだけだ。もっと深い関係が要らないと思う。

スジン：私は友達には家族ぐらい私の考える事を見せられない。私は多分悪いけど、計りながら、これはいい、これはわるい、そういうのをちょっと少しずつ計りながら。でも、恋人の場合はちょっと違う。友達のもっと上のレベルだから、自分のことをもっと見せてあげるけど、友達は。でも、私の家庭では、友情はそんなに大切ではないと思っていたから、そういう家庭で育てたから、こんな考えがあるでしょう。それはちょっと悪いのよ、私はそんな家庭に育って来てないなら、多分友達だけを考えるかも...

シルヴァン：友情は大切だけど、そんなに大切ではないと思うってこと？

スジン：まあ、大切だけど、なんか、そんなに、私にとっては。

シルヴァン：僕にとってはやっぱり大切だと思う。

スジン：うん、私ちょっと反対の意見だから、少し話せば面白くなると思ったね

ステファニア：私の家族も同じ。あのう、両親はあまり友達がいない。私が子供の時、いたと覚えているんだけど、今はいない...でも、私は全然違う。とても、大切だと思うし、友達がいなかったら、本当に困る。あのう、生活は本当につまらなくなるね。多分、家族と一緒に、一番大切な存在と思う。やっぱり...でも、家で、その考えはあまりないから、時々友達のために、努力するし、色々なことをしてあげる。そういうことは、両親はあまり分からないので...

シルヴァン：僕もそうだよ！全然同じ

ステファニア：あれは本当に辛い。友達が問題あれば、電話とかしたいけど、両親には「エッ、どうしてそんなことしているの？」って言われる。

シルヴァン：両親が自分の考えを分かってくれないって感じ...

ステファニア：友達に本を貸したりする時、「エッ、どうしてあなたはいつも自分の持ち物を貸すの」...分かってくれないので。

ステファニアさんと話すにつれて、結構同じ意見を抱いていると思ってきましたが、スジンさんとは違いました。ステファニアさんは僕と同じに、友達を大事に思うし、色々なことをともにしたいけど、僕に反して、スジンさんは友情が大事だと思っても、僕と同じくらい友情を優先させてないようです。そして、誰もが友情をやや大事にしているというおことは確かだけど、それは家族をはじめ、様々なことの影響を受けて、友情に対する考え方が変わらな思っていました。スジンさんは、友情を優先させてない環境で育ってきたから、今はそんな大事にしてないとのことだ。それに対し、僕は、気が合わないお父さんが友情を全然大事にしてないから、友情を一層大事にしてきたかもしれない。

.....

### 友達がストレートに話すべきなのか？

アレックサンダー：腹を割って話すことですね。時々、友達が嘘ついて欲しいと思います。癌の時、患者に言わない方がいいかもしれないと同じに、時々友達に嘘をついた方がいいと思います。具体的に正直に話した方がいいと思います。言わない方がいいと思うとき、その通言わない。また、言った方がいいと思う時、その通言う。

シルヴァン：なるほどね、確かに、時々友達に何も言わない方がいいよね。友達を成長させないし、傷だけを与えるなら、黙る方がいいだろうね。例えば、友達が恋人と別れた。そして、一年間が経って、僕は「その元かのは実は友達を浮気した」と分かった。その場合は友達に言わない方がいいと思う。友達のいい思い出をそのまま残した方がいいだろうね。

アレックサンダー：そうですね。ですから、ストレートというより、正直に話さない駄目だと言った方がいいです。

ステファニア：考えは同感だけど、私はそんな事があまり出来ない。あのね、私はそうい

う性格があります。他の人を幸せするようにと言うか...

シルヴァン：傷をつけないように？

ステファニア：違う。あのう、他の人は私...幸せさせたいという感じ。だから、時々、もし何か悪いことを言ったら、「あ、あのう人はどう思ってしまうかな？」...多分、私があの人に嫌いになるだろう...だから、あまりストレートに話せない。でも、もちろん友達によって違う...強い関係の友達だったら、出来ると思います。

シルヴァン：それは勿論だよ。最初の頃は人とであったばかりだったら、まだ友達ではない人とか、友達になりそうにない人なら、勿論、そんなにストレート離せない。絶対話せない。その上、まだ深い関係がないと、成長させる批評ではなく、ただの批判になるだろうね。だから、一種の親密が必要だと思うよ。

ステファニア：私はストレートに話し合えると、「あ、それは本当の友情なのです」と思う。ええと、私にとって本当に難しいので、出来る、本当に友情だよ...

友達にストレートに話せばいいかという問題は、やっぱり僕と全く同じに考えている人はいなかった。一人はストレートに話すのはいいけど、出来ないと思っているし、また一人は、ストレートではなく、正直に話すべきだと思っているらしい。実は、ステファニアさんが「ストレートに話し合えると、「あ、それは本当の友情なのです」と思う」ということと本当に同感なのです。でも、アレクサンダーさんの「場合によって、ストレートに話さないと駄目か、ストレートに話せばいい」という意見と一致してきました。多分、前からしていることだっただろうが、気付かなかったです。つまり、ストレートというよりも、友達あるいは友情関係を成長するように話すべきだと思う。

.....

### **男女友情があると思いますか？**

アレクサンダー：男女友情があると思います。私は女性の友達がいますよ。しかし、女同士の友情はないかもしれません。彼女達はいつもライバルだし、...男同士の友情はもっと単純だと思います。

シルヴァン：そうだね。僕も男女友情が絶対あると思います。でも、女同士の友情は分かりません。内のグループの中で、女子もいて、お互いに友達だと思いますから...

スジン：ないと思う。いつも問題があると思う。私は男の友達が欲しいと思うけど、いつも、いつも、まず大丈夫だけど、その後で、彼達は恋人関係が欲しくなる。

シルヴァン：僕は、フランスの友達のグループの中で女の子がいて、すっごい、兄弟みたいな関係を結んで、一番気が合う女の子の友達を妹と見なしてるんだ。だから、彼女と付き合うなんて、思えない。同じベッドで喋ったり、寝たりして夜を過ごしたこともあるし...彼女と本当に付き合えないよ。

スジン：いいよね。私もお兄さんが欲しいけど、無理だと思う。本当に、シルヴァンの経

験は本当に珍しいと思う。普通はないと思う。大体、私の知っている男の子はいつも最初  
はいいけど、後では恋人になりたいから...

ステファニア：あります。あとう。一方で、女同士の友情より、作りにくいですけど、ま  
た一方で、作ることが出来たら、時々女性同士の友情より、関係はもっと深くなる場合が  
たくさんあると思います。

シルヴァン：僕もそう思います。例えば、フランスではテウっていう女の子の友達がいる  
んです。彼女は妹みたいな存在になってきました。だから、そうですね、深く関係になっ  
たと言えるでしょうね。

ステファニア：そうね、時々女性同士は、なんか、羨ましいこともあるし、でも男女友情  
の場合はそんなことはない。普通はないから、もし本当に兄弟みたいな関係が出来たら、  
すごい友情になります。女性と男性は違うから、もっと面白い友情になれると思います。

シルヴァン：まあ、そうだね。意見とか考え方のやり取りも出来るし、...支えもなれる。  
例えば、恋愛とかの問題があれば、そういう人と話せて、自分の意見だけではなくて、女  
性の意見も貰えるので、大事だと思います。

ステファニア：そうですね。男性の友達と話すと、男性の意見も貰って、すごく役に立つ  
と思いますので、それも面白い。日本に来てから、男女友情が出来た。東大に通っている  
人と。でも、最初は相手の目的が分からないので、問題があると思う。だから、その人の  
考え方が分かるまで、どうすればいいとか、他の人はどう考えているか...ちょっと問題  
だけど、後話しながらそういうことが分かるので、その後ではいいと思います。

男女友情の問題について、色々な意見を聞かせて頂きました。スジンさんはそういう友情  
がないと思います。これに対し、ステファニアさんとアレクサンダーさんはあると思う  
らしいです。確かに、スジンさんが話したように、男女関係の場合は、友情だけではなく、  
愛情も生じ兼ねないですが、ステファニアさんと話したように、男女友情が出来れば、同  
性友情と違う関係があります。そういう友情のやりとりは、男女関係にかなり有意義だと  
思います。僕にとっては、本当に親しくなった女性は、友達というより、むしろ姉妹だと  
いった方が正しいと思います。

.....

### 友達なら、何を期待しますか？

アレクサンダー：正直に付き合ってくれる事。

シルヴァン：なるほど、さっき話したように、アレクサンダーさんには友情の場合、正  
直であるの一番大事なことです。

アレクサンダー：そうです。友達は正直に話してくれる人だと思います。

ステファニア：やっぱり、私は期待する人です。友達だったら、そういう事をしないと駄

目だと思います。そうしないと、友達ではないかもしれないと思います。

シルヴァン：まあ、多分皆はそう思うだろう。ずっとあげる、あげる、あげるけど、何も期待してない人はいないだろう...

ステファニア：でも、本当に期待し過ぎる。だから、時々私は出来るだけ、手伝ったり、連絡したりするけど、他の人は多分同じ事をしてくれないと、失望だ。例えば、高校の時の友達が、私が日本に来てから、メールの一通も書いてくれない。あれは苦しい。私にとっては、連絡を時々するのが大切だと思う。2行でいいから...そのことを期待しています。連絡は本当に大切だと思います。

シルヴァン：そうだね...友達は自分のことを忘れてないって感じがするから、心を暖めるよね。

ステファニア：そして、大人になると、友達と自分が違う道を歩くから、連絡は本当に大事だと思う。あのう、学校の時は何論毎日、毎日会うので、大丈夫だけど、その後で、連絡は本当大事だと思う。

スジン：そうね、難しいけど、私の一番いい友達は女で、やっぱり女だから、フランスはどうかもしれないけど、私にとっては女と男は本当に違う。女同士はね、本当に親しい、本当に深い話をお互いに行っているけど、なかなかある距離間があると思う。フランスはどうかもしれないけど、私の場合はいつもそうだから、さっき言ったけど、私にとって友達はそんなに大切な存在ではないけど。だから、私がしてあげてくれることを同じぐらいしてくれて欲しい。

シルヴァン：恩返してかんじ？

スジン：うん、同じでしょう。だから、あまり友達から期待しないよね。でも、多分病院に入ると、お見舞いしてくれるとかそのぐらい。

僕の三人の相手の立場は違いました。アレクサンダーさんはただ正直に話して欲しいらしいです。また、スジンさんは別に何も期待していない。これに対し、ステファニアさんは友達なら、手伝ったり、連絡したりすることを始め、色々なことを期待しています。僕は、友達を家族に見なすので、やっぱりステファニアさんの意見と賛成でした。友達を出来るだけ、手伝いたいし、出来れば嬉しくさせたいと思っても、ある友達が時々連絡とか、手伝ってくれないなら、僕に対して「友情」を抱くと思わなくなってしまうでしょう。そういうわけで、ステファニアさんのように、結構期待している人だと言えるでしょう。

.....

### 友達と別の道を歩んでも、親密が消えないと思いますか？

アレクサンダー：本当の友達だと、別の道を歩んでも、会ったら、話が弾んでいくと思います。面白いね。そういう人は本当に知っているから、平気です。

シルヴァン：そうですね！僕もそう思いますよ。僕も全く違う道を歩んでいる親友がいま

すよ。やっぱり、表面的なことは変わったけど、親密は変わってありません。

アレックスサンダー：多分、心を元々知っていますので、そういうことが出来ると思います。

シルヴァン：まあ、これはスジンとアレックスサンダーと話した事だけど、友達と連絡とかしたら、違う道を歩んでも、表面的なことは変わるけど、心は元々からしているから、友情が続ける。例えば、僕の友達の中には、一人の友達もルーブル美術館で勉強しているし、他の友達も物理学を勉強しているし、僕も日本語などを勉強している。だから、やっぱり、表面的なことが変わったけど、心はまだ繋いでいると思う。ステファニアは？

ステファニア：あれは、今までね、沢山の友達を失った。何故かという、ある友達と、連絡少なくなるし、電話も少なくなるし、知らないうちに、友達という言葉を使っても、本当の友達だと言えない。それはすごく悲しい。だから、今でも、日本で出会った人と凄く大切ですけど、私はイタリアに帰ったら、どうなるか？

シルヴァン：そうだね...それは怖いね。僕は実は高校の時には友達は、ええと、多分10人ぐらいいた。今は3、4人ともう会わないけど、他の人とはまだ会うよ。勿論毎日ではない...皆が勉強または仕事にあちこちに行ったのだ。でも、まだ会うよ。そして、その友達は勿論今住んでいる所とか、勉強している所で、他の友達が出来た。そして、本当に仲がいい友達になると、「シルヴァン、来月はここで出来た友達とパーティーがあるから、来てね」って言ってきて、その友達を紹介してくれる。そのお陰で、友達の生きていることが分かって、話をもっと弾んでいく。それは勿論友達のしていることに興味があるのだ。だから、色々な事を供にするから、家族みたいな関係があると思う。それは多分、子供の頃から、「広く浅くより、狭く深く」の方を優先させたからだろう。勿論、人数が多いパーティーもしたことがあるけど、時々、友達と一緒に、6、7人で、休みを過ごすには、何処かに行って着たこともある...そのお陰で、絆が強くなったと思う。

ステファニア：今、親しい友達はいつから知っているのですか？

シルヴァン：人によって...一番長く付き合っている友達は中学校3年せいからです。一番短く付き合っているのは2年間ぐらい...でも、彼はジョンという友達の友達だった。ジョンはそういう人と強い絆を結んだから、僕達に紹介してくれて、その友達が僕達のグループに溶け込んだ。家族のメンバーになった。

シルヴァン：ところで、アレックスサンダーと話した時は、「本当の友達だと、別の道を歩んでも、会ったら、話が弾んでいくと思います。面白いね。そういう人は本当に知っているから、平気です。」ということについて話していた。というのは、例えば、スジンの長い間付き合っている友達は物理学を勉強して、スジンは日本語などを勉強しても、会ったら、話が弾んでいくと思わない？

スジン：うん、その友達とお互いによく知っているから、二人は違うことをしているとか、違うことを勉強しているけど、うん、私もそう思う。

シルヴァン：僕もそう思う。もとの心を知っているから、多分表面的なことが変えても、もともと自分が自分だから、離れても...

スジン：もともとの自分はそんじやえなひよね。だから、本当に久しぶりに会っても、まあ、昨日に会ったよな気持ちだね。それはちょっと心がとうじる。

シルヴァン：まあ、そうだね。心が繋いでいるかもしれないよね。

実は、その質問を用意していませんでしたが、アレクサンダーさんがそういうことを切り出して、面白いと思ったのです。何故かと言うと、アレクサンダーさんまたはスジンさんと同じように、僕も友達と別の道を歩んでも、親密が消えないと思うからです。友達とは、家族と同じように、同一の道を歩まなくても、家族関係があると思います。しかし、ステファニアさんが話したように、連絡したりするのはかなり必要だと思います。そうしないと、友情関係が断ち切ってしまう虞があるでしょう。やはり、好きな人と離れるのは怖くて、悲しいことだと思います。しかし、「本当の友情」の絆を結べることが出来れば、離れていても、友情の絆が断ち切らないということをまだ確信しています。

.....

#### **友達とどんな関係がありますか？**

シルヴァン：うん、ところで、アレクサンダーの言葉だけど、「広く浅くより、狭く深く」はどう思う？

スジン：私もそれの方がいいと思うよ。

シルヴァン：でも、深く関係が欲しいけど...

スジン：欲しいけど、果たして私の考え方がそうから、ちょっと難しい。だから、私の考え方から、ちょっと変えて、友達を作って。

シルヴァン：友達が出来たいけど、考え方は邪魔になる？

スジン：もともとの考え方はそうだから、ちょっと難しい、私は

シルヴァン：でも、それが欲しいって言っただろう。欲しいけど、出来ないと思う？

スジン：で、また、私が、ちょっと、例えば、今韓国にいる友達に、私はこっちに来た時に、本当に寂しくて、いつも電話したり、メールきたり、したけど、今その友達はメールとかあまりしてくれない。だから、私は今後悔したのは、やっぱり、私は韓国に居る時、私がいあまり友達に...そのくらいしてあげていたから...今は、韓国にいた時、その友達にもっとももっともとしてあげたら、私がいその友達にいまもっとメールとか書いてくれるかもしれない。多分はこれから私がいえなければならいだろう

アレクサンダー：私は「広く浅く」より、「狭く深く」の関係の方がいいと思います。でも、残念ながら、それは珍しいと思います。でも、そういう関係が好きです。実は、アピールしても、相手は話に乗らない場合もあるのでしょうか。

シルヴァン：そうですね。ですから、僕はできるだけ、相手と色々な事を共にしたいと思います。そうすれば、相手の事をもっと知っていて、関係が段々深くなっていくと思います。でも、やっぱり、ある人と気が合わないのだから、友達にならないんですね。でも、それ

も、相手と話せば分かると思います。

相手はあまりはっきり意見を出していないですが、僕が分かったことは、友達となら、色々な人と浅い関係より、少なくともいいけど、深い関係が欲しいです。僕も、そう思います。家族みたいに思う友達だから、深い関係がやはり欲しいです。でも、スジンさんと、アレックサンダーさんが話したように、誰かと強い絆を結ぶのは難しいです。アレックサンダーさんの場合のように、相手が話に乗らないやら、スジンさんみたいに、友情の交際の為に十分努力しないやらで、強い絆を結べるのはなかなか難しいです。

## 結論

僕は、動機レポートに書いたように、「友情」という気持ちがかなり大切です。しかし、前もって、僕の意見と食い違う意見を抱く人がいると知っていました。そういう訳で、ディスカッションで話したことには、あまり驚きませんでした。しかし、アレックサンダーさんと話したきっかけで、何か気付きました。それは、友達と話すと、必ずしもストレートに話すべきではありません。それだけではなく、前から、必ずしもストレートに話していなかったらと思うました。実は、大部分の場合は、ストレートに話すべきですが、それは、友達あるいは友情関係を成長するためだから、時々、友達に要らない傷を付けないように、ストレートに話すことは、必然ではないと思うのです。

更に、またアレックサンダーさんと話したきっかけで思ったことですが、友情が本物なら、友達と離れていても、友情が続くと思います。しかし、ステファニアさんが話したように、友情の関係は時々脆くて、壊れる虞があります。しかし、「本当の友情」の絆を結べる事が出来れば、時々メールや電話をすることによって、心が繋がれていて、友情の絆が断ち切らないと思います。

又、友達を二番目の家族と見なす僕に反して、ある人は友情をそんなに大事にしていません。それに、僕は妹と兄の関係があるように、男女友情があると思いますが、やはりある人は、ないと思うそうです。けれども、面白いと思ったことは、「友情の概念」と「期待」の相関関係のことです。後で考えると、当然だと思われませんが、やはり大事なことだと思いました。例えば、お互いに友達と見なす人がいます。もし、そういう人の友情概念は同じではないと、一人は欲求不満になる虞があると、話すにつれて、思ってきました。さらに、誰もが、友達となら、出来るだけ、狭くても、深い関係を結びたいですが、それはなかなか難しく、珍しいと思うらしいです。そういう訳で、僕の二番目の家族と出会って、運がいいと思いました。

## 終わりに

この総合という授業はかなり難しいと思います。日本語の問題ではなく、一貫性を保って自分の意見を表すことです。そして、毎週レポートを書き直すこと、またはディスカッションを書くことはかなり面倒くさいとおもいます。しかし、この授業のお陰で、他の留学生と話しながら、よく知り合うように慣れたり、自分にとっての大事なことについて考えたり出来るから、いい経験だったと思います。

## 一番大切な時点

ビヨン スジン

### 1. 動機

過去、現在、未来 人々はそれぞれ大切にする時点があり、それが自分の価値観によって違うと思う。そして生きていながら自分が大切にする時が変わるかもしれない。例えば、歴史とか過去の生物・地形を研究している人々は彼らにとって過去のことはすごく大切だろう。一方、人生ってというのは短くて太く生きることだと考えている若者、日本社会で問題になっているフリーターなど一時的なことを追求している人々は現在を大切にしていると思う。逆にもっと素晴らしくて発展的な未来のために何か一生懸命やっている人々、それも現在を犠牲するまでやる人が非常にいる。このように世の中には色々な人がいる。だから一般化するのは無理だと思うが、大体こうだろうと私なりに推測してみた。

ところが私がなぜこういう考えをするようになったか。人がどんな時点を大切にしているかによってその人の価値観や考え方など知るようになると思ったからだ。その人なりの一番大きい価値観と考え方がいかにによって職業、趣味、宗教、結婚相手、一番重要なことなど全部が決められると思う。

それでは私って言う人はどんな人だろう。私は現在を大切にしている人だ。二度と来ないこの時間の中で生きているから今にとって今のことが一番重要なのだ。こういう考え方を持っている私にとって今一番大事なことは勉強することだ。勉強ってというのは時が与えられるので、折々しなければ結局後で後悔すると思うからだ。だから学生時代はやはり勉強することが一番重要だと言いたいのだ。こういう考えるようになったのは過去の経験から作られた。

何年前、勉強だけに気を入れても時間が足りなかった私の高校時代、私は勉強以外のことをしながら無駄な時間を過ごした。人によって考えが違うかもしれないが、今考えてみるとその時、私にとって一番大事だったのは勉強することだったと思うわけだ。なぜかという、もしその時、私が勉強することに一生懸命だったら、今、私が望んだ姿で存在しているかもしれないからだ。しかしその時は勉強以外他のことに夢中だったので、私にとって一番重要なことが何なのか考えられなかった。ついに、大学に入るときも成績が悪くて私が望んだ学校に入れなかった。それで他のもっといい大学にもう一度挑戦したいと思ったこともあるけれど、いろいろ与件上できないし、自信もない。今私の自身を見ると先日のが後悔で残る。それで今さら、その時、私にとって一番大事だったことが勉強だったけどそうしなかったから現在を大事にしなかったと思ったのだ。私にこういう過去の経験があったのでその後、現在を大事にしようと心掛けたのだ。今もまだ学生だから何年後に後悔しないように今一番のこと「勉強」に頑張りたいわけだ。いつも折々すべきなこ

とを頑張る人は現実に忠実する人、現実を大切にできる人だと言えると思う。

つまり今現在、私にとって一番大切なことが何かをきちんと分かり、いつも楽しく一生懸命生きていけば明日即座死んでも悔しくないと思う私だ。このごろ自分も知らないうちにいろいろな原因で死んでしまう周りの人々を見て、もっと今の一分一秒を大切にしようと思うようになったのだ。だから私って言う人は現実主義者だと言っても過言ではない。私にとって一番大切な時点は現在だ。

## 2. ディスカッション

### 1) 現在を大切にできる人々の精神

初めてのディスカッションでは私の考え方と大体似ている考え方を持っている人々の場合について話し合いながら、ディスカッション相手の意見や考え方や大事にしている時点などを見分ける趣旨だ。

Q) 私が日本社会を見て、現在を大切にできる人の代表的な人々を見つけました。

フリーター だと思いましたがけれども、それらの精神についてどう思いますか？

スジン： 私が今二人に質問したいことがあるよ。今私が日本の社会を見ると、フリーターっていう集団があるけど、皆知ってる？何か決まっている仕事を持たず、バイトだけをしながら自分の生活をしている人。フリーターについてどう思うかな。

ダン： よくないと思う。仕事と言ったら将来のためにお金をたくさん貯められるけど、もしバイトだけだったら、ただ今の生活費のためにしているのみでしょう？

スジン： でもフリーターって言う人々は人生というのは自分のことだから自分が一番したいことのために、またしたいことをしながらバイトでお金を稼いでいるのよ。いつでもしたいことをするのができる。さらに人生を楽しんでいる。そういう点でこれらが現在を一番大切にできる人々だと思ったけど・・・

(省略)

ダン： フリーターの生活をしてその人たちは幸せ？

スジン： ま、幸せだと思ってる人もいるし、そうではない人もいるかもしれないね。決まってる仕事があると安定的な生活ができるけどさ。バイトだけではいつも不安感を感じてる人もいるはずだからね。

ダン： もしそのフリーターの人が現在の生活に満足しながら、バイトだけをしている生き方が好きなら大丈夫、理解できる。けど、たぶんフリーターの人が怠け者もいるよね。私はあまりよくないと思う。私も現在が重要だと言ったんでしょう？それはね。まずあの過去、現在、未来を別々にしてはいけないと思う。全

部連続的だと思うの。だから過去の経験を参考しながら将来のためにこの現在は一生懸命頑張ろうということだった。

スジン： そう考えてるんだ。じゃ、ニはどう思う？

ニ： 人によって違うと思う。私はフリーターも一度したいと思う。幸せそう。フリーターの生活は楽しいと思う。自分のしたいことができるから。しかし仕事する人は同じ仕事ばかりしてるからつまらないでしょう？けど安定性があるいい点があるね。

(中略)

フリーターの生活は自由的でしょう？いいと思う。けど私の場合はね。やっぱり母のことを考えなきゃ駄目だから。母は安定的な仕事を得るのをもっと大事にしてるのよ。

スジン： あ！フリーターもしたいけど、ただ考えだけだよ。現実にはできないよね。

ダン： 今は一生懸命働いてお金をたくさん貯め、十分のお金があったら仕事を止めて自分の好きなこと、例えば旅行に行ったりすればいいじゃん。

スジン： 残念だけど日本の場合はそのことができないよね。仕事やめてから再入社すること。ところで、ダンさんの話を聞いていると現在より未来に焦点を合わせているみたいね。

ニ： 現在と未来を区別するのは難しいと思う。

スジン： けど私が考えるのはダンさんの話だったら、人生を楽しむのがなかなか難しいでしょう？今やりたいことも自由的にやることもあまりできないし。

(省略)

スジン： あ！分かった。ダンさんとニさんは過去と現在と未来は連続的なことだからどっちが一番大切かを決めるのが困る？たいへんだ。

ダン： そう。フリーターの人はずっと現在だけ重視しているけど、私の考えは未来の方がもっと大切だと思う。だから現在にやっていることは全部将来のためにやっていると思う。

スジン： じゃ、それはあれでしょう？未来を前提しているということだよ。

ニ： え、私は現在を大切にしたいけどやっぱり未来の方を考えなきゃならないと思う。

スジン： もちろん私も将来のこと考えているよ。将来の夢を持って、絶対かかないたいと思ってるの。だけど今の方がもっと大事。明日私がどうなるかも全然知らないしね。

これまで2人と一緒に話し合っただけで3人全部が現在を大切にしているのが分かった。しかし見方が少しずつ違った。私の場合は現在が一番比重を置いているものの、他の人は現在というのは未来のためにある、未来の基盤として大事なもの、過去と現在と未来は切っても切れないものだと考えている。やはりそれはそうだと思う。現在と未来は連続しているから。だから私はその基盤とした現在が一番大切だと、他の人は目標としてのその

結末点を重く受けられたのだ。私の考えはもし未来のことを大切にしてその程度が過ぎると現在を粗末にするおそれがあると思う。もっと詳しく言うと未来の方を焦点を合わせていると今の一番のことやその順序などを忘れてしまう可能性があると言いたい。

Q) 今、自分にとって一番重要なこと・時点は何だと思いますか。

シルバン： 一番っていうのはないと思うけど、三つぐらいの重要なことがある。やっぱり好きな人が重要だと思う。その人たちのために努力することっていうかな。またフランスに戻って仕事を見つけること。その仕事のために今、日本語をちゃんと勉強することぐらい。

スジン： それではシルバンは未来と現在とどっちをもっと大切にしている？

シルバン： そうね。例えば友達と一緒に旅行に行って遊びながら現在を楽しんでいたとしよう。で、結局、今のそういう友達が全部未来になって私にはもっと大事な人々になると思う。だから現在のことは未来のことだと思う。

スジン： やっぱり現在は未来のためのことっていう意味？

シルバン： うん。過去のことでも時々現在に影響がある。けど過去は過去のみ、現在と未来の場合は何か複雑の関係か、と思う。

(省略)

シルバン： 言いたいのはやっぱり未来が大切だと思って未来だけを大事にするのは過失だと思う。また現在も現在だけ大事にするのも過失だと思う。両方を一緒に考えるのが一番賢明だと思う。

スジン： 私もそういうことを私の考えの一番下に置いているのよ。でも私の場合は明日死ぬかもしれないから今私がしている全てのこと、勉強を始めいろいろなことにもっと一生懸命するようになる感じ。

シルバン： でも僕の分からないことっていうか、明日、死ぬかもしれないと思っているのに、なぜ今勉強なんてやってる？

スジン： そうだよな。もし明日死ぬことが明らかになったら、なぜ勉強なんてやってるか。私がバカじゃない以上、勉強もさることながら何もしないんだろう。でもただの前提として持って「頑張ろう！後回ししなくて今日のことは今日しよう」という意味で。今日のことに忠実するのよ。未来に後悔しないように今一生懸命しよう！という立場なの。そういう考えがまるで促進剤みたいなことかな。だから私の場合は逆に未来のことか前提だよ。

シルバン： そう言ったらスジンは未来のことを想像している？

スジン： うん。私もやっぱり人生を生きている人だから、未来に何になりたいとか目標とかがあるの。あるから今のことに忠実している。でもただ勉強のことだけ考えずに今していることを楽しんでいる感じ。やっぱり未来のことでも大切

にしているけど、未来のことははっきり見えないよね。ただ目標のみ、想像のみ。そういうことに一生懸命向かっているけど、不安な存在よね。だから今の姿で今、全てのことを楽しもう！という精神で生きているんだよ。だから未来だけを見て、現在を犠牲するまで働きすぎている人々を見るとちょっとかわいそうね。

今回はシルバンと話しながらシルバンにとって一番大事なこと、また、シルバンの話を聞いていてシルバンは一体どの時点を大切にしているか、知りたくなったのでシルバンの場合を聞きながらその人についてのいろんなことが分かった。シルバンは現在のことは未来のことだと考えている。お陰で 現在と未来を分離して別々に考えるのは無理だ っていうことについて前にもそういう考えを持っていたけれど、もっと考えるようになった。また、私が明日どうなるか全然わからないから悔しくないように、そして未来に後悔しないように現在のことを一生懸命しようと私の立場を打ち明けた。

## 2) 現在と勉強

Q) 勉強ということをどう思いますか。

Q) 勉強ということに魅力を感じたことがありますか？あったらいつですか？

シルバン： 勉強の場合も大体は未来の方のためにすることだと思ってるけど、もし凄い勉強に夢中になって勉強自体を楽しんでいると言えば、あの場合は勉強することが現在の方に合わせてあると思う。スジンはどっち？

スジン： 私は勉強っていう自体が他のことより好きだよ。私が知らなかったことを見つけたら、面白くなってだんだん夢中になる感じ？

シルバン： 何か、知識が増えるのが好き？

スジン： うん、そう。また私の見方が広がる感じ。私をもっと素晴らしくなる感じ。例えば、他の人は知らないことを私が知っている私一人で自分満足っていうか、けっこう気持ちがよくなるよね。

シルバン： そうだよ。

スジン： またそういうこともあるんだよ。私なんでこんなに勉強に頑張りたいと言うか。その理由はまだ話したことがないけど、私を始めて見る人たちにただ目で見られる表面だけ見てから私が判断されるのが大嫌いだった。私はそういう外面を気にしているほど内面も気にしている人だと思いたいと思ったの。ここで内面っていうのは頭に入ってる知識だよ。だからそうするためには本当に私自身から凄く努力しなきゃ、いつも研究しなきゃだめだった。でも絶対他の人に私を表現したいからそうするわけではないのね。私の哲学っていうか、外面と内面のおしゃれを追求。だから内面の発展のためにいつも知識

を増やしているんだもん。その方法が勉強。そうだよ。

シルバン：なるほどね。

スジン：そういうのが勉強の魅力だと思うのね。すればするほど何か人を光るようにしてくれるものか。シルバンは勉強に魅力を感じたことがある？

シルバン：僕は勉強っていうのはあまり好きじゃないっていうか。机の上に3～4時間ずっと座って何か書いたり覚えたり、暗記すること大嫌い。僕にとってそういう風の勉強より脳を使う方法を勉強すること、分析することの方がもっと大事だと思う。いろんな人と話したり、新聞を読んだり、常識を貯まる方がもっと好き。日本語の場合をみると、ただ覚えることより僕が作文して間違っただけを自分で見つけることがもっと面白い。また意味が似ているけどなんでこんな場合にこの単語を使うかそういうことを考えるのがもっといいと思う。ものの定義よりその原理を知ることになることにもっと興味があるのね。つまり分析してから吸収することがもっといいじゃないか。それが私の立場だよ。

スジン：あ、そういうのが勉強だと思うんだ。なるほど。やっぱり勉強する方法の違いか。私が今前提にしている未来に私も夢がある。他の人に私が知っていることを教えてあげることが好きで、教授になりたい、先生になりたいっていう夢を持っているよ。で、そういう道を選んだから私が他の人よりもっと勉強しなきゃならない立場だよ。だから少しずつ楽しんでいるかな。

シルバン：勉強っていうのを考えると僕にとってはいろいろ何か覚えたりすることより習うことがもっと好きでそういうのが勉強だと思う。

スジン：私は両方全部勉強だと思うよ。授業に入ることは勉強じゃない？

(省略)

勉強ということについてけっこう話し合ったけれども、大体省略して重要なことだけ書いた。私たちの話を読んでみると二人の勉強観がまったく違うことを見つけられる。その違いはやはり育ってきた環境、例えば、国、西洋：東洋の価値観、社会の雰囲気によって考えている基準が違ったと思う。私は日本や韓国の高学歴志向主義に多くの影響を受けて作られた勉強観を持っているに反してシルバンはもっと効率的な勉強観を持っていたと思った。一方、勉強と時点と関連させて考えてみたがシルバンはやはり現在と未来は繋がっているので現在勉強しているのも未来のためだと自分の立場を述べた。かえって私は未来のことを前提して現在に焦点を合わせている人だから勉強も違いなく今の勉強を楽しんでいる。だけどいつも楽しんでいるわけではなくやりたくないときもある。またやはり未来の私の夢を考えているから勉強をしなければならない立場だ。その立場を考えながら勉強というのも楽しんでいる。さらに勉強を楽しんでいる間に色々な魅力も見つけたと話ながら、考えが違うシルバンの話を聞いてもっといい勉強方法についても考えてみた。

### 3 . 結論

私にとって大学に失敗したのは私の人生にかなり大きな影響を受けたと思った。けれどもまだ学生だから数回の機会があるのは幸いだと思う。正直にこういう事について気が付いたのはこのごろだ。今、私の妹がまた私と同じような状況だから私がいろいろ忠告してあげながら私自身を振り替えた。やはり学生時代は勉強するのが一番大切なことで、今一番のことをちゃんとわかって頑張るのが現在を大切にしているのだと言いたい。けれどもその目的が未来なのは絶対間違いない。誰にも普通の人間なら未来のために今最善を尽くしているはずだ。だから皆同じ考えは未来に向かっている。ところが向こうたちと私の違いは見方・観点の差だった。向こうは未来のために現在が存在している。現在は未来のこと。と未来の方を大切にしていた。しかし私の場合は初めからディスカッションを通じてもっとはっきり言えるようになったのが私は未来を前提して現在に焦点を合わせている立場だ。現在の方がもった大切だというわけだ。ここで誤解するおそれがある部分は私が現在を大切にしていたとして現在だけ考えているのではない。私もやはり過去の経験を基づいて今の考え方が出できたから、また未来に教授になりたいという夢を持っているから今勉強しているし、誰かを教えるのが大好きだから絶対その夢をかかないたいと思っているのだ。だから勉強も楽しんでいるし、やはりやりたいことだから楽しむのも大切にするのもできると思うのだ。私の見方から見ると、もし未来にすごく大きい比重を置いていると現在を犠牲してしまったり、粗末にしてしまったりしていわゆる考えすぎてしまう恐れがあると思った。だから皆同じで未来を向かっていくなら現在をもっと大事にしたらもっと素晴らしい未来がさぞ来るだろうと思う私だ。さらに実は明日自分がどうなるかも分からない不安的な私たちだから何でもかんでもすべきなこと、したいことに忠実したら悔しいわけではないと思う。

他の人はどうかについてディスカッションの間に把握したけれど勉強と言えば、後で後悔しないように今、すべき、一番重要なこと。だから時が与えられた今一生懸命しよう。その上教えることが好きで未来になったら教授になりたいという夢があるから勉強が楽しめる。最後に私の外面と内面のおしゃれ、内面の発展。こういう理由で勉強を大事にして一生懸命しているわけだ。この過程でどんどん勉強を楽しむようになって、魅力を見つけるまで至った。ところで新しく気が付いたのがその勉強の方法、私の頭に色んな知識が入る方法があまり効率的ではなかったということだ。この原因は覚えさせる主義に溺れている私の環境だった。だから今私にとって一番重要だと言われている勉強をもっと楽しくて一生懸命するためにはどうすればもっと効率的かを考えながら無駄な時間を過ごさないようにするのも私には大切だ。

ここまでディスカッションしながら新しく気が付いたことをまとめたけれど、結論を出そうとした時、また新しく気が付いたことを見つけた。私には現在が一番大切な時点で今は勉強するのが一番のことだと言っているけれど、やはり人生全体的に見るといつまでも

一番のことが勉強にはならないということだ。これから就職も結婚も数多いことが出てくるから一番のことは時によって変わると思うのだ。しかし変わらないのはやはり私にとって一番大切な時点は現在というのだ。

\* この活動の終わりに・・・

まず、この活動を通じて私自分についてもう一度考えてみる大事な機会になったと思う。いろいろ私自信に正直に答えているか、嘘をついているのではないか、などなど考えてみた。

また日本語でレポートを書きながら、いろいろなことについて話し合いながら私の日本語の能力が一層よくなったのではないかと思った。正直に言うとまだ下手な日本語でこういうレポートを書くのは凄く大変だった。だから色々な人に指摘されたり、コメントを聞きながら何回も繰り返して書いたりするのが私には大変だった。けれどもその人たちのお陰でレポートがもっとよくなったと思う。

ところがいずれにしても一番よかったのはこのクラスの雰囲気だった。どの授業でもこの授業より面白くてメンバーシップがいい授業はなかったと思う。いつも一緒に集まって昼ご飯を食べたり、週末に遊びに行ったり、お誕生日を迎えた人のためにパーティーをしたり、いろいろ楽しい時間だった。忘れない一つの思い出になると思う。

## 家族の大切さ

### 動機

私は、自分で決めた主義に従って毎日生活しようとしている。その主義の一つは家族を大事にすることである。青春期の時、家族に反対して、早く自立したいと思っていた。大学に入った時、欲しかった自立は現実になったが、家族と離れて新しい生活を始めるとすぐに家族の大切さに気がついて家族に対する考えは変わってきた。なぜかという、たぶんつらいエピソードがあったからかもしれない。自立が強く欲しくて、新しい生活してみたかった私は、両親と相談しないでぜんぜん知らなかった人達とアパートに住むことにした。私とぜんぜん違う生活習慣があった人々だったと気がついたのに。でも、その所で暮らしはじめると私の決定が大きな失敗だったことがすぐわかった。一緒に住んでいた人々は、両親が教えてくれたことに反対する不規則な生活を送っていたので、私をすごく不安にさせた。落ち着ける家に帰る週末を待ちながら、日々を過ごしていた。その体験を通して、家族から伝えられた教えが命令だけではなく、もう私の考えや性格の部分になったことがわかった。そのあとで、アパートを変えて、親しい人々と幸せに暮らせるようになったが、最初のつらい体験のおかげで両親との関係もよくなり、家族の大切さが明らかになった。

どんなに自立しても、家族の影響を消すことが無理であると思う。というのは、自分の性格の部分であるからである。個人の考え方、やり方はかなり家族の教育に原因があると思う。もちろん、みんなそれぞれ自分の個性を自分で作るのだが、育ってきた家族と何か関係があると思う。どんなことが大切か、どんなことが善いか悪いか、人々に対してどうふるまえばいいか、ということは全部家族から伝えられている。必ず正しいというわけではなく、必ず受け取れるわけではないけれども、家族の教えをベースにして自分の個性を作ると思う。友達と住んでいた時、そういうことがはっきりと見えた。私たちはそれぞれ家族で習ったパターンを時々繰り返してしまっただが、そのパターンが家族によって違うから誤解がよくあった。

家族がいかに大切か、いい影響を受けたか、悪い影響を受けたか、ということがわかるようになるとともに、「私も家族を作りたい？作りたくない？」、「どんな家族を作りたい？」という質問も心に浮かぶ。20歳ぐらいになったら、まだいままで生活していた家族の一員だが、同時に自分の新しい家族を将来に作ることを考えはじめるともあろう。私は恋人といろいろ話して、作りたい家族を彼と一緒に想像している。もちろん、ある点に対して意見が違っても、家族に対するだいたい同じ考えをもっている人に会うことが大切なことであると思う。よく話し合い、相互に助け合う家族を作ろうと思う。私にとって、家族は手伝ってくれる人がいつでもいる安全なところである。船が海で活動するが、休む時、嵐の時、困る時安全な港に帰ると同じように、人々の生活も家族の外で

あるけど問題がある時、落ち着きたい時、親しい笑顔を見たい時家族という所へ帰ることができてよいと思う。

つまり、私にとって、家族は港のようなものです。

## アイリンさんとのディスカッション

最初の相手は、アイリンさんです。

彼女は、香港に生まれたがオーストラリアで大学に通って今香港で働いている。

ディスカッションを始める前に、アイリンさんに私のレポートを読んでもらって、私の家族について話しておいた。

### ● 自分の家族の体験

**ステファニア：**

アイリンさんの家族の体験についてちょっと話してもらいたいと思います。家族と言えば、どんな考えがでてくるんですか。

**アイリン：**

私の家族も、ステファニアさんの家族と比べると、だいたい同じところがたくさんあります。私の両親は子供の時から、厳しかくて、あまり自由にさせてくれませんでした。両親にとって、一番大切なことは勉強で、ほかのことはしないほうが良いといつも言われていました。それに、私よりお姉さんのほうが良い成績をとったりしたので、両親から「勉強しなさい」と言われて、私の人生はつまらないと思ってしまったこともよくありました。あの時、反対したい気持ちがあったので、両親が知らないうちに、友だちとオーストラリアをいろいろな旅行したりしました。

卒業してから、香港に帰って、仕事をしはじめました。はじめての仕事なので、挫折もあったり、いろいろ間違えたこともありましたが、父は相談してくれて、いろいろなことを教えてくれて、本当に役に立ちました。あの時、経験がある父は今まで私に対して厳しかったのは、彼は私にいい人になってほしいわけだとわかるようになりました。

### ● 家族の大切さ

**ステファニア：**

じゃ、だからあれは家族の大切さがわかるようになったきっかけでしょうか。

**アイリン：**

そうです。ステファニアさんにとっては大学ですが、私にとってはやっぱり仕事です。

**ステファニア：**

日常的な生活では、家族の大切さを感じられる場合がありますか。

**アイリン：**

うん、今日本にいますが、香港にいる時、いくら忙しくても必ず日曜日に家族とみんな一緒にどこかへ行く習慣があります。本当に楽しい時間を一緒に過ごします。

**ステファニア：**

じゃ、一般的にはアイリンさんの家族の体験はいい体験と言えますか。

**アイリン：**

はい。もちろん苦しい体験も時々ありますが、ジェネレーション・ギャップがあって、意見が違うので、当然なことだと思います。それでも、家族のイメージが確かにポジティブですよ。

**ステファニア：**

やっぱり、アイリンさんも私と同じように家族を大事にしているでしょう。

**アイリン：**

はい、もちろん。私も結婚したいし、自分の家庭を作りたいです。

**ステファニア：**

私の両親は、家族の生活を本当に大事にしています。互いの意見が時々違っても、コミュニケーションを本当に大事にします。アイリンさんのご両親も、家族のことを大事にすると思いますか。

**アイリン：**

はい、そうです。家族に対しては、私と両親は同じ考えがあると思います。私の家族は5人で、みんな家族を大事にしています。そうではなかったら、たぶん毎週の日曜日を一緒に過ごせなかっただろう。

アイリンさんとの会話は、ディスカッションというより、体験の交換でした。ディスカッションを深くする前に、互いの経験について話し合いたかったからです。相手が育ってきた家族がわかったら、相手の考えがわかりやすくなると思います。

アイリンさんの体験は私の体験と似ているので、互いに簡単に理解できて、共感しました。

## ● 家族の影響

**ステファニア：**

私にとって、どんな自立しても家族の影響を消すことができません。アイリンさんは、どんな場合に、どんな時に、家族の影響を感じられますか。

**アイリン：**

私は、子供の時から大学までずっと家族の影響を受けたんです。あまり自由に決定できなかったからです。両親は私の代わりに何をしようかいいと決めたことが多かったです。とにかく、影響を感じる言えば、両親が勉強をすごく大事にしていたので、私もそうし

ていました。例えば、友達に「宿題をしなくてもいいよ！」などと言われても、私は全然できませんでした。いつもまじめに宿題したり、勉強したりしました。そうしなかったら、すごく不安になってしまいました。

**ステファニア：**

私とまったく同じ！

じゃ、アイリンさんもう自立したんですね。自立しても、ご両親からコントロールされなくても、まだ家族に影響された行動がありますか。

**アイリン：**

はい。例えば、同棲のことです。最初は、自分で考えたら平気だと思っていました。でも、両親の反対の意見を聞いてから、私の意見も変わってしまって、そういうことが全然できないと思います。

**ステファニア：**

わかりました。やっぱり、何か考える時、何かについて意見を持つ時、自分の考えか、家族からもらった考えか、わからない場合もあるんじゃないでしょうか。「私は本当にどんな人ですか。もし両親の影響がなかったら、どんな人になったんだろう。」ということをよく考えています。どの辺まで家族が影響するか、わからないと思います。だから、私が両親がなかったら、または違う両親があったら、どんな人だろうか、どんな人生しているだろうか、調べたい気持ちになりますが、無理です。なので、たぶん自分で自分の性格を作ることがほとんどできないかな、とってしまいます。

**アイリン：**

たぶん、ステファニアさんは今までずっとご両親の影響を受けて、自由に生活があまりできなかつたからかもしれません。

**ステファニア：**

でも、自由に生活しても、私の生活の中に何か家族と関係があると思います。例えば、両親の考えを従わない人も、両親に反対したい気持ちというわけだけであることをしてしまいます。多分、自分の意思じゃなくて、反抗だけです。

**アイリンさん：**

もちろん、自分のパーソナリティーはまわりの人から大きな影響を受けるんです。

**ステファニア：**

いろいろな影響の中で、家族の影響が一番強いと思います。だから、そんなに大切だからこそ、将来に家族を本当に大事にしたいと思います。

アイリンさんと話しながら、パーソナリティーの問題についていろいろ考えてきました。やはり、性格ということが不思議なことだと思います。人間は個人的に生きていきますが、全く勝ってに生活できないと思います。子どもの時から、家族、周りの人々、生活する場所、体験することなどが必ず性格や行動や意見などに影響を受けるからです。それで、私

私たちはまわりの人に対して少し責任があると思います。

もっとも大きな責任のあるのは、家族でしょう。だから、家族をできるだけいい環境にしようとする必要があると思います。

### シルバンさんとのディスカッション

私の体験と違う体験のある人と話してみました。シルバンさんのご両親が離婚して、彼は子供のときから母親と一緒に住んで、父親との関係があまりよくないそうです。

#### ● 家族の体験

**ステファニア：**

「家族」と言ったら、シルバンさんの頭の中にどんな考えが出てくるんですか。

**シルバン：**

やっぱり人々に思われた普通の家族と違う家族。お父さん、お母さん、子供達という家族ではありません。私にとって、家族とは母と母の親戚です。

**ステファニア：**

人というより、気持はどうですか。例えば、私は「家族」と考えたら、「暖かい」という感じがします。

**シルバン：**

私もそういう人達だったら、同じです。父とは、全然気が合わないから。血の関係があるので、努力してみますが、言わない理由で絶対気が合いません。裏切られたことまりました。そういうわけで、彼と彼のお姉さんなどは、親戚だけど暖かい関係がないんです。やっぱり、母の所のほうは、人々は単純で、親しい雰囲気があります。

**ステファニア：**

一般的にしたら、シルバンさんの家族の体験は苦しいですか。いいですか。

**シルバン：**

親父との体験はすごく辛かった。でも、母のところのほうがいい経験でした。みんな親切にしてくれたりしました。

**ステファニア：**

シルバンさんの家族は、二つの部分に分かれているみたいですね。血の家族もありますが、自分で選んだ家族もあるということでしょうか。

**シルバン：**

うん、そうです。

#### ● 家族の大切さ

**ステファニア：**

そういう体験があっても、家族のことは一般的に大切だと思いますか。

私にとって、人の成長のためには、家族の役割はとても大事ですが、シルバンはどう。

**シルバン：**

私がシルバンになったのは、父のおかげではなくて、母と母の親戚のおかげです。選んだ家族の影響は大きかったです。父がきらいことも影響をうけたんです。彼がしてほしかったことを反抗するためにしなかったこともあります。

**ステファニア：**

じゃ、やっぱり生活の決定は家族と何か関係があります。いい場合でも、つらい場合でも。

**シルバン：**

私の作りたい家族は、親父の失敗をしたくない。私の子供に父がいない状態を体験させたくない。

**ステファニア：**

「家族を作りたい」と言ったら、ある面で苦しい体験があったのに、シルバンさんは家族のことに信じているでしょう。

**シルバン：**

信じているよ。映画で幸せな家族の関係をみると、「そういうことしたい」、「そういう家族を作りたい」と考えます。

でも、家族の中でみんながんばらないといけないと思います。それに、ちょっとこわいです。子供は家族だけじゃなくて、ほかの人も影響を受けるので、いくらがんばってもよく育つわけではない。

#### ● 家族の影響

**ステファニア：**

シルバンさんのパーソナリティの中に家族から影響されたところがあることは感じられますか。

**シルバン：**

そういうところがあると思うんだけど、感じられないくらい。たぶん、私は人間関係を大事にすることは、父がそういうことを全然大事にしないというわけだろう。でも、本当かどうかわからない。母の考え方も、私の考え方といろいろな面で違う。

**ステファニア：**

というと、シルバンさんは自分のパーソナリティを自分で作ったと思いますか。

**シルバン：**

もちろん、周りの人々と環境が影響を受けたけど、家族のほうが特別に影響を受けたことは言えない。

**ステファニア：**

本当？私にとって、家族は自分の性格に強く影響を受けると思う。私の場合は、すごく感じられる。時々、「どの辺まで私ですか。どの辺まで家族の影響ですか。」ということを考えてしまうこともある。

母は、あまり自信がなく、チャレンジがきらいな人です。だから、私にいつもかんぺきしてほしい。逆に、私は元々にチャレンジが好きな人で、失敗を通して成長できると思いますが、母の影響で私のパーソナリティーも変わってしまったんです。母は失敗や危険を防ぐためにあきらめる人です。私もそういう態度に影響されて、怖くなって、したかったことをあきらめてしまうこともある。両親を失望させたくないから。この場合は、家族の悪い影響です。

**シルバン：**

私にとっては、家族よりも社会から影響を受けています。現在の若者はあまり家にいないし、両親とコミュニケーションがないし、仲間とグループを作って、そのグループのほうから影響を受ける。だから、ちょっと怖いんです。親がいくら頑張っても、いくらいい教育しても、子供は周りの人に悪い影響されたいしょうがないでしょう。

**ステファニア：**

うん、私もそう思って、ちょっと心配しています。将来の子供が生まれる世界はあまりよくないですね。

相手の家族の体験は辛いところもありました。自分の家族の人に裏切られたこともあって、彼にとっては血の家族もあれば、愛情の家族もあります。シルバンさんと話す前に、親の離婚などの苦しい経験があった人はあまり家族の価値を信じていないと思っていました。親の離婚を体験して、「永遠の愛は無理で、私は結婚したくない」という考えてしまう人によく会ったから。でも、シルバンさんの反応は違いました。辛い体験があっても、彼は家族のことを信じて、家族を作りたい希望を持っています。お父さんの行動があまりよくないからこそ、シルバンさんは同じ失敗を繰り返したくないです。やはり、彼は愛情の家族を中心して、楽観的に考える力を得ました。それはよかったです。

## 結論

ディスカッションをしたり、まとめたりしながら、家族のことについていろいろ考えた。私は一人暮らしをするきっかけで、家族にありがたく思うようになった。離れる前に、当然だと思っていたことやうとうしいと思っていたことが、すべて愛情から生じていたということがわかった。

家族の大切さを気付くようになった時期は、だれでも違うけど、そういうことは一生に一回きつとあるだろう。話し合った相手は、体験が全然違って二人とも家族のことを大切と判断するそうです。ただ、ディスカッションしながらそれぞれの家族の欠点も出てきた。私の家庭も、いくら幸せでも欠陥がある。でも、家族を大切と見なすのは自分の家族がかんぺきだという意味ではない。要点は、対話のことだ。話し合うことができたなら、後は全員が家族のことを大事にしたら、問題があっても一緒に直面できると思う。

ディスカッションをして新しく考えたのは、パーソナリティの問題だ。家族や周りの環境は自分の個性によく影響を与える。私も、アイリンさんも、家族に影響された性格の面がよく感じられる。もし他の両親などがあつたら、違う人になつただろう。というと、どの程度まで自分のパーソナリティでしょうか。どの辺まで周りの人に影響を受けてしまうでしょうか。そういう問いは、今まで考えたことがあまりなかった。私の場合も、家族から悪い影響を受けたある性格のところを変えることができればいいと思う。多分成長するのは、周りの影響を受けた点を区別できるようになって、いい点を守り、よくない点を変えて自立することでしょう。

家族と自分とはきりはなせないからこそ、今の家族も大切にしたいし、また将来の家族も大切にしたいと思う。

話し合った相手も家族を作る願望があると聞いて、喜んだ。というと、現在の社会で家族の役割は弱くなって、家族の価値を信じない若者が多いからだ。それに反して、私は家族が社会の基本だと思う。

家族を作りたいと言っても、シルバンさんと話したように、不安もある。というのは、親がいくら頑張っても、いくら家族のことを大事にしても、子供が外の環境や人達から悪い影響を受けてしまうことがよくあるからです。でも、将来の子供が生まれる世界があまりよくないからこそ、家族はたいへん価値があると思う。私にとって、家族とは港のようなものである。海と同じように、人間の生活はきれいだが、危険や苦勞がいろいろあつて信用できる場所は大切だ。だから、将来には頑張つて、港のような家族を作りたいと思う。問題があつたら、助けてくれる安全な家族。

いつでも帰られる気楽な家族。

失敗しても、笑顔で迎えてくれる家族。

本心を打ち明けられる家族。

一方では価値観や理想を伝える、また一方では世界の海を自由に体験させたりする家族。私の夢想する家族。

終わりに

レポートは完全に書けた。信じられないくらい。大変だったが、大変であればあるほど、満足感も大きい。そんな長い文章が書けるようになって、自分でもびっくりしている。レポートの活動のおかげで、考えを日本語で表す自信がさらに強くなった。

でも、日本語の能力を高めるのに加えて、新しい友達もできた。それは、一番ありがたいことだと思う。毎金曜日一緒に楽しく過ごした昼休み、変なケーキで祝つたいろいろな誕生日、おいしく食べたタイ料理などの国際友情の雰囲気は、一生の宝物になると思う。それは、勉強より留学の本当の価値だと思う。

## 生きがいについて

ラクキエツトゲーム ニツチャヤー

1. 動機
2. ディスカッション
  - 生きがいとその理由
  - 生きがいきっかけ
  - 生きがいと両親
  - 生きがいと変化
3. 結論
4. 終わりに

### 1. 動機

タイで勉強していたとき、ある先生は私たちに記事を読ませた。その記事の中に「生きがい」という言葉があった。生きがいとはどういう意味かあまりわからないので、そのとき、先生から説明してもらった。そして、先生に「あなたの生きがいは何ですか」と聞かれて、皆がいろいろなことを答えた。私には長い間考えて、結局、自分の生きがいが見つかった。その時、先生に「私の生きがいは母の幸せです」と答えて、先生はとても感心しているようだった。私はとても嬉しかった。

生きがいの意味が分かってから、この言葉に興味を持っている。なぜなら、この言葉で自分自身をもっと理解するようになったからである。以前、生きがいということは全然考えたことがない。何のために生きているか、などの問題は考えたことがあるが、答えははっきりと考えたことがない。なぜかという、考えても、何もなく、頭が痛くなり、やめたほうがいいと思ったからだ。しかし、生きがいとは特別な意味があるようで、もっと深く考えていきたくなくなった。

なぜ私の生きがいは母の幸せなのか、いろいろな理由がある。まず、私にとって母はすべてである。母が私のために何でもできると私は信じている。だから、母が一番大切な者である。そのため、私も母のためにできるだけ何でもしてあげたいと思う。これは、タイ人にはとても大事で、「恩返し」ということである。けれども、私はとても親孝行だよと世界に公告したいということではない。これは本音である。

タイ人は大体父よりも母の方が大切にしている。だから、自分にとって一番大切な人は誰かと聞かれたら、やはり母だと答えた人は半分以上だろうと思う。私もそうだ。私の場合は特に母のことを大切にしている。なぜかという、父が10年前なくなって以来、母は一人で私とあと二人の姉を育ててきたからである。どんなに困っても、母の力で今まで生きられている私になった。それに、私は末っ子だから、母はいつも私をかわいがってくれて、いろいろなことを教えてくれた。病気などの時にも特に面倒を見てくれた。

自分の生きがいを探す方法は人によって違うと思う。私には、生きがいを探した時、死にたくなる時を想像してみた。その時は多分いろいろなことが頭の中に入ってくるだろうと思いながら、一番強い影響を与えることはやはり母のことだった。

なぜこの方法を使ったのかというと、生きがいと自分の存在は関係があると思ったからである。つまり、生きがいというと、私の存在は誰、または、何のためなのか ということである。だから、反対に考えてみると、私の存在がないと、誰、または、何に影響を与えるか ということ、死にたい時の考えを使用した。

もし私が死んでしまったら、最も悲しんでくれる人は母だろう。母がどうするのか、どうやって生きられるのか 等の問題を考えて、死にたくない気持ちが浮かんできた。母は今までいろいろ世話をしてくれたので、私も母のために生きていきたいと考えるようになった。母が幸せになるまで、いろいろなこともしてあげたいと思う。そういうわけで、私の生きがいは母の幸せになった。

母の愛情で私は力が強く、人生の目的を持ち、自分の価値を感じるようになった。今まで生きているのは母のためで、今からも母の幸せのためだ。ある人は仕事に生きがいを持っているし、夢のために生きているし、皆は自分の生きがいを持っていて、自分の道を歩んでいく。

私にとって、生きがいとは母の幸せのためにこれからの人生の目的である。

## 2. ディスカッション

私の相手は青空グループの段さん、ゆりかもめグループの馬さん、同じサボるなグループのスジンさんである。

### ● 生きがいとその理由

二：段さんの生きがいは何でしょうか？この間、話し合ったとき、ご両親ですよ。

その理由は何でしょうか？

段：生きがいのことは二さんのレポートを読む前に全然考えたことないですね。でも、レポートを読んで、もし私が死んだら、一番悲しい人は父と母でしょう。それに、私は日本に来る前に、両親と離れたことないです。日本に来てから、自分の将来のために、また、父と母のために日本語を一生懸命勉強しています。将来についてははっきりしていないが、ただ、両親のために。

二：そうですね。段さんとずっと一緒にいるご両親はやっぱり一番大切な存在でしょうね。

私もそうですね。今まで生きられるのは母のお陰なんですから、母が私の人生にとって一番です。で、もし結婚したら、段さんの生きがいは変わりますか？主人と子供とかは？

段：やっぱり変わらないです。自分の力で両親の幸せのために。結婚しても、子供のためと両親のためだと思います。私は自分のために何かするのは少ないです。大体は他人のためです。でも、父母のためにするのは自分の将来のためと同じじゃないですか。

二：ええ、そうですね。私もそう思いますね。結婚しても、やっぱり母の大切な存在はいつまでも、感じているんですね。私ももし子供がいたら、子供の幸せのためにも生きていこうと思います。でも、私の場合は自分の将来なんかあまり考えなかったです。ただ母のことを考えているだけで、今一生懸命生きていて、よい将来になるのは今やっていることの結果だけです。

二：で、スジンさんの生きがいは何ですか？

スジン：私の生きがいは夢です。私は夢が叶うように、今一生懸命やっています。自分をもっとすばらしくなるように、すごい人になりたいです。ある夢が叶ったら、もっと大きい夢があります。夢と言うと切がないでしょう。段々すばしくなれると思います。私はやっぱり両親が大切な存在だけど、両親のために生きていくのはおかしいと思います。私はもっとすばらしい人間になるために生きています。私の人生だから、恩返しはいつかしてあげるとは思います。すばらしい人になったら、それをするのはまだ遅くないと思います。私は両親のためにするのは自分の目標じゃなくて、娘としての義務じゃないかなと思います。これは私にとって生きがいとは思わないです。

(省略)

スジン：段さんは一人子だから、ご両親の愛情は全部段さんに入れる訳ですね。二さんも末っ子だからですね。私は三人兄弟で、長女なんです。特に厳しくしてくれました。

二：スジンさんは私の一番上の姉と同じ立場に立っているようですね。私の姉も母のことをそんなに大したものと思わなく、今、彼女は自分の娘のために一生懸命仕事しているんです。昔からも、自分がどんなことをしたいなら、そのことをして、母のことはあまり考えないようです。

いろいろ話していくと、いろいろな考えが出てきた。私と同じような考え方を持っている段さんは両親の幸せのために今一生懸命しているが、それは自分のためと同じだと思っている。また、夢のために一生懸命しているスジンさんはやはり自分の人生だから、自分の夢が一番だと言った。皆は自分の理由があって、自分の生きがいを持っている。段さんの場合は両親とずっと一緒にいるし、一人子だから、両親を重視しているのは当然である。それに、話によると、中国人は両親を大切にすることが多いそうだ。スジンさんの場合は長女としての考え方を持っているので、両親よりも、自分の将来を重視している。両親のことは義務として思われている。それぞれの理由は個人的な考え方がよく見える。また、その考え方の構成はそれぞれの家庭環境と社会によって、違うことも分かってきた。私の場合は自分の家族背景や自分の立場で、母のことに気を使うようになった。考えてみると、もし私は長女だったら、今の私は多分自分の夢を追いかけしているかもしれない。相手がいろいろな話を聞かせて、私もいろいろなことを考えられるようになった。それでも、私は自分の生きがいをまだしっかりと持って、自分自身ももっとわかるようになった。

- **生きがいきっかけ**

二：自分の生きがい考えたきっかけは何ですか。どんな時を思い出しましたか。

段：特にはないですね。生きがいを考え始めた時は大学の入学試験を受ける前です。その時はとても困っていたんです。私は上海にある大学に通いたいですが、でも、父と母はそばにいてほしいから、その時に生きがいを少し考えました。もし、上海に行ったら、父と母と離れて、自分の生活は多分つらくなるが、その大学は私の夢の大学だから、その時はぜひ行きたいです。でも、私がいなかったら、もし父と母が病気になったら、世話をする人はいないですね。だから、私は選ばなきゃならないよね。だから、父と母のそばにいた方がいいと思ったから、家の近くにある大学に入りました。

(省略)

二：馬さんは生きがい考えたきっかけは失敗した時だと言っていましたね。そのときはどんなことを考えていたのでしょうか。

馬：私は違う道を歩いていて、失敗した時、私はどうしてこの道を歩いているのかと思いました。そして、その時自分の生きがいは一体何のかを考えるようになりました。それで、自分が失敗になりたくない、つまり、成功したくなるから、自分の成功が私の生きがいじゃないかなと思ってきました。

二：スジンさんはどうですか。

スジン：私はいつか考えたか分からない。ただ私が生きていながら、私は成功したいから、この夢に夢中になって、夢を果たすように、一生懸命何かをするのです。そういう間で、それが私の生きがいかなと思っていました。

(省略)

生きがいを考え始めたきっかけはそれぞれの人によって違う。しかし、皆は自分の道を歩いていた時に自分の生きがいを見つけた。というのは、段さんの場合は自分の人生の道を歩いていたら、途中で、その道は二つの道に分けてしまった。その時、どちらへ行くか自分で選ばなければならない。馬さんの場合は自分が選んだ道を歩いてきたところが、それは間違っていると気が付くと、自分が考えられるようになった。スジンさんは自分の道を歩いているながら、知らないうちに、自分の生きがいが出てきた。皆の道を見ると、私の人生の道はどうだろう。私は多分その時、自分の道はぼんやりしているようだったので、どちらへ行くか分からないと、困っていた。それで、自分の道を作るために自分の生きがいを考えるようになった。それから、自分の生きがいを見つけると、自分の人生の道もはっきりしてきて、母の幸せの道なのである。

#### ● 生きがいと両親

二：段さんは私のレポートを読んでから、同じような考え方を持っていることがわかってきたんでしょうね。もし、私のレポートをまだ読まなかったら、段さんの生きがいは両親のことですか、それとも、自分のことですか？

段：今の考えでは、やっぱり自分の人生ですよ。すばらしい人生になりたいですが、でも、自分の人生と両親の人生が一緒じゃないですか？ 両親が幸せになるまで、今一

生懸命勉強して、卒業してから いい仕事をして、たくさんのお金をもらって、そのお金を使って、父と母を世話にしたいんです。

二：もし、選んだらどちらのほうが選びますか？

段：一つだけ選ばなければいけない場合は、やはり父と母だと思います。中国では、貧しい人が多いですね。学費を払うことができないし、家計も少ないし、子供が十八歳になったら、仕事をしなければなりません。でも、その人の中にとても大学に通いたい人がたくさんいるんですが、そのとき、家族のために学業を辞めて、仕事をする人もいます。もし私はその状態になったら、私もそうします。

(省略)

馬：二さんのレポートを読んでから、二さんの生きがいはお母さんの幸せですね。どうすればお母さんが幸せになれるかということを知りたいですけど。

二：多分 私が一生懸命勉強して、仕事に成功して、幸せな人生を過ごしたら、母も幸せになれるかもしれません。

馬：そうすれば、自分が成功になることも自分の生きがいじゃないですか。自分が成功にならないと、お母さんが幸せにならないでしょう。

二：でも、自分が成功になるのは私の目的じゃないです。将来、私は成功になるかならないかは分からないが、一番大切なのは、母の幸せです。母が幸せになるまで、私がいろいろのことをしようと思っています。私が成功にならない場合は 私は障害に負けず、弱くにせず、楽しんで生活を送れば、母も幸せになれると思います。もし母がいなかったら、私はこんなに勉強するのはしないし、自分の好きなことを選んで、その道を歩いていきます。自分の成功にかかわらず、自分が好きだったら、それをします。で、お金がなくても、苦しい人生になっても、大丈夫です。でも、私にとって、母は大切な存在ですから、よく考えてみると、日本語を勉強したら、自分の将来もよくなりそうで、母が楽になるだろうと思ったから、日本語を勉強することにしました。

馬：というと、自分を全部捨てて、お母さんのために生きているということですね。でも、私の考えでは、両親として、自分の子供が自分なりに生活できれば、両親も幸せになると思います。

二：実は、自分を全部捨てるとは言えないですね。その時、私は自分の本当に好きなことがはっきりと分からないし、自分が興味のあることもできるかどうか自信がないようだったから、どちらへ行こうかを迷っていたところ、姉が日本語の道を勧めてくれました。その時、自分の立場がない私は もしこの道を選んだら、母が幸せになれるかなと思って、選んでみたのです。だから、自分を全部捨てたじゃなくて、ただ、分からないとき、母によい道だと思ったら、選んだわけです。でも、この道を選んでから、そんなにづらいことはないし、逆に、いいチャンスがたくさん得ました。

馬：私の場合、両親の幸せは一つの生きがいだけど、私は自分のこと、自分なりの生活をしたいと思います。私は幸せになると、成功になったら、両親も必ず幸せになれると

思います。

二：私もそう思います。でも、馬さんにとって、一番大切なのは何でしょうか。生きがいとはいろいろじゃなくて、一番一つは何ですか。

馬：一番大切なのは、やっぱり自分の成功だと思います。

(省略)

生きがいについて、ある問題が私の頭の中に浮かんできた。生きがいというと、必ず自分のことだけなのか、他人のことに関係があるのか。皆と話し合うと、大体生きがいは自分のことだとわかった。しかし、両親にも関係があるようである。段さんと馬さんは二人とも両親のことを考えているが、選ばなければならない場合になると、段さんにとって両親が一番で、馬さんにとって、自分が一番ということだ。私には段さんと同じ立場に立っているけれども、自分のことを段さんほど考えない。私には母が一番のなら、二番がない。私たちの人生は両親からもらったせい、自分のことと両親のことを分けるのが難しくなる。

#### ● 生きがいと変化

二：生きがいは変われるかどうか段さんの意見を聞きたいです。

段：将来は多分変わりますかな。私今身分はただ一つです。娘ですね。だから、今までの生きがいは両親の幸せです。将来は私たちが両親と離れるかもしれません。一生両親というわけがないですね。だから、生きがいは多分変わるかも知れません。

二：私もそう思いますけど、でも、今悩んでいるのは私は自分のことをあまり考えないで、全部母のためにしているので、自分が馬鹿みたいなのと思ってしまいました。自分自身があまり分からなくて、自分の人生なのに、何で自分のことを考えないかなと思っています。

段：二さんは自分にとっても不公平という感じがありますか。例えば、私の友達は自分の人生は一回だから、自分がしたいことはきっと自分のためにします。自分がしたくないことをしたら、自分に不公平だと思っています。二さんはどうですか？

二：私はあまり考えないから、そういうことも考えないですね。私は今自分を満足していないみたいな感じがします。

段：でも、二さんは母のために何かをすると、自分も大満足でしょう？

二：そうですね。私の考えは母が幸せになれば、私も満足すると思います。

段：人によって違いますね。でも、二さんはもし、自分が満足できたら、いいじゃないかな。他人の考えは他人の考えです。自分の考えじゃないから 自分が満足できたら、それは一番大切なことだと思います。

段さんは私と同じ考えで、生きがいが変われると思っている。それに、私は自分が悩んでいることについて、段さんのことばを聞くと、前のように自信があるようになった。迷っているような私はこれから、自分の答えを探そうと思いながら、そんなに悩まなくていいと思う。

(省略)

二：その場合、やっぱり生きがいが変わるんですね。

馬：へえ、でも、生きがいは変わるものじゃないですよ。一生のものだと思っています。

二：変わるんです。例えば、今の生きがいは母なんですけど、将来子供がいたら、自分の子供のことも考えなければいけないでしょう。

馬：分かりました。でも、私の考えでは、生きがいは一生のものだと思っています。自分の生きがいのため頑張らなきゃなんないと思います。

二：そうですね。私も今、一生懸命しているのは母のためなんです。でも、生きがいとは変わらないものとは限らないです。

馬：でも、いつも変われば、自分の目標も失うんじゃないですか。

二：いつもではないですね。生きがいは馬さんが言った通りに、一生のものなんですけど、変わる場合もあるんじゃないですか。でも、生きがいだったら、よく変わる人があまりいないでしょう。生きがいをよく変わる人は多分自分自身があまり分からないし、自分の目的もはっきりしていないみたいですね。

生きがいとは変わるものか、変わらないものか。よく考えてみると、生きがいとは人間の人生の一番大切なものだとも言えるから、もし一回自分の生きがいを持っていたら、それをずっと守りたい感じがするだろう。しかし、生きがいが変わっても、それは人生の終わりではなく、逆に、それは新しく願望の火を灯して、自分の人生を続けるようにする。生きがいが変わるか、変わらないかとのことを気にせず、自分の生きがいをはっきり見えて、自分の人生を無駄にならないようにしていたら、それは一番大切だと思う。

### 3. 結論

生きがいということは話せば話すほど、難しくなる気がする。しかし、よく考えると、いろいろなことも考えられるのではないかと思う。人間には自分の一番大切なものが必ずある。ただ、それは何なのか、はっきりわかった人もいれば、まだわからない人もいる。もうわかった人はそれなりに自分の人生を過ごしていく。それで、人生というと、自分のことだけか、それとも、周りの人のことにも関係があるか。やはり、人間は社会にいたので、自分のことだけ考えると、社会に生きられない。しかし、自分のことと周りの人のこととどのような取り入れ方を使うのはそれぞれの人によって違う。ある人は自分のことよりも他の人を重視している。ある人は自分のことの方が大切にしている。私の人生は母に結びすぎるかどうか自分も分からない。でも、段さんが言った通りに、もし私が満足していたら、それはいいじゃないか。私の人生だから、どのように過ごすか、自分で決める。段さんも馬さんもスジンさんも自分の道を自分で選んだ。ただ、それぞれの人は自分の条件を考えて、それぞれの生きがいが出来てきた。生きがいということはあまり考えたくない人もいるし、はっきり考えたことがない人もいるが、毎日過ごしていくとともに、自分の目的もだんだん分かるようになった。

皆と話してから、私は自分のことを考えるようになった。やはり、私はスジンさんのように自分の夢もあるし、馬さんみたいに成功のことも考えなければいけないし、段さんのように両親と自分の同様の考えも持っているようだ。私の夢はいっぱいある。その中の一つは、母を幸せにすることである。母を幸せにすれば、それは私の成功だ。私の人生には永遠の自分の幸せは母の幸せな姿を見たり、心に感じたりすることに限る。

将来、生きがいがどのように変わっても、生きがいは生きがいだ。生きがいが変わっても、自分の姿がまだ残っている。生きがいは自分の考えから生じるから、自分の本当の姿を表す。だから、自分自身が分かれば、生きがいも分かるようになると思う。私は最初から自分の生きがいを持っていて、自分の人生を過ごしていく。毎日生活を送っていくと、自分自身が分かると思ったけれど、皆と話していくと、ある時、自分が本当に分かるだろうかと疑問も出てきた。しかし、今までずっと考えていて、やはり私はもともとの考えのように自分自身がわかったが、ただ、皆の意見を聞いて、それを自分に取り入れて、ちょっと迷ってしまった。しかし、皆と話し合った機会があるのは、本当に貴重な時期だった。なぜかという、そのため、私は自分自身がもっと深くわかるようになったからである。

私にとって、母の幸せはやはり私の生きがいである。いつまでも、何十年たっても、私と母の絆がまだ結ばれている。その上、この前よりも今からこそ私の人生の方向がはっきり見えるようになり、これからの人生は母が幸せになるまで、自分のことも考えながら、自分で選んだ道を歩いていく。 お母さん、見守ってくれね

私にとって生きがいは母の幸せのために自分の人生の道である。

#### 4. 終わりに

総合レポートという言葉はこの授業が始まってから、よく言う言葉だ。毎週コンピューター室で夜遅くまでタイプしていた私の姿。一番つらいとも言え、今まで死ぬほど大変だった。しかし、やっと終わりまで頑張ってきた私は肩から荷を降りるくらいほっとした。この授業はどんなにつらくても、私の幸運だと思った。いろいろなことは全部このレポートから考えられた。私の日本語能力が成長してきたばかりか、私の考えも変わって成長していく。また、この授業から私は一番大切なものを見つけた。サボるなグループの友情である。皆と出会い、友達になり、これより貴重なことはない。これから、私たちのお弁当時間が懐かしくなるだろう。この授業が終わっても、私たちの友情は終わらない。グループの皆さん、始まりから終わりまで、いろいろなコメントや意見をもらい、一緒に頑張ってきて、本当にありがとうね。 リーダーのクッキーさんも夜遅くまで、私に迷惑をかけられたりして、ごめんね。皆と過ごした時間を忘れないと私は約束するよ。